

權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強制競賣ノ申立アリタルコト
ヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ強制競賣ノ申立ヲ通
知ス可シ
最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ
付キ之ヲ定ム可シ

〔註〕共有物ノ持分ヲ強制競賣ニ付スルトキハ其債務者ノ持分ノミニ限リ競賣ヲ爲スヘキ
モノトス是レ債務者ノ財産ニ非サルモノマテモ競賣スルノ謂レナキモノナリ而シテ債權
者ヨリ其持分ニ付テ強制競賣ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ他ノ共有者ニ其ノ通知ヲ爲
スモノトス此ノ通知ヲ爲スマテニ先ツ其申立アリタルコトヲ登記簿ヘ記入セサルヘカラ
ストセリ

本條ノ場合ニ於テ債務者ノ持分ニ付ニ評價ヲ定ムルニハ即チ最低競賣價額ハ共有物全部
ノ評價ニ基キ其持分ノミニ代價ヲ定メサルヘカラス之ヲ詳細ニ言ハハ先ツ全部ニ付キ評
價ヲ爲サシメ其評價ヲ更ニ債務者ノ持分ニ算當シ其ノ算當ニ依リテ定マリタルモノヲ以
テ之ヲ最低競賣額ト爲スモノナリ

第六百九十條 競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタ
ルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル

差押記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

〔註〕競賣申立カ競落ヲ許ササルコトニ完結即チ決定シタルトキハ裁判所ハ差押記入ノ取
消ヲ登記判事ニ囑託セサルヘカラス即チ第六百五十一條ノ規定ハ競賣手續開始ノ決定セ
ラレタルトキハ裁判所ハ登記判事ニ囑託シテ不動産ノ差押ヲ登記簿ニ記入スヘキコトト
定メタルヲ以テ該登記ヲ抹消スルコトヲ亦登記判事ニ囑託スルモノナリ若シ之ヲ抹消セ
サルトキハ其記入ハ依然トシテ存シ債務者ノ財産ハ已ニ競賣ニ付スヘカラサルコトニ決
定シタルニモ拘ハラス法律ノ拘束ヲ受ケテ之ヲ動かスコトヲ得サルニ至ルヘキナリ是レ
本條ノ規定アリタル所以ナリ

第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ
配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於
テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

〔註〕競賣代金ヲ配當スルトキニ其代金ニシテ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ
於テハ之カ配當方法ハ如何ニ之ヲ定ムヘキヤト云フニ本法ニハ其ノ規定ナキヲ以テ民法
商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當スヘキモノトス而シテ其配當法ハ權利ノ等差ニ從ヒ即
チ權利ノ種類例ヘハ抵當權、質權、其他ノ特權等ニ因リ其權利ニ種別アルモノナレハ之ニ
依リ其配當ヲ爲ササルヘカラス尙ホ例ヘハ甲者ハ先取特權ヲ有スル者ナルトキハ他ノ凡

テノ債權者ニ先チテ其債權ノ辨濟ヲ受ケ其殘額ヲ以テ他ノ一般ノ債權者ニ配當スルカ如キヲ云フ

第六百九十二條 各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ
前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

〔註〕本條ハ各債權者ニ於テ競賣代金ヲ受取ルヘキ手續ヲ規定シタルモノナリ即チ各債權者ハ競落期日マテニ其ノ債權ノ元金利息費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ササルヘカラス裁判所ハ此計算書ニ基キ之ヲ調査シ其配當ヲ決定スルモノナレハナリ

債權者カ右期日マテ計算書ヲ差出ササルトキハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用スルモノトス而シテ該條ノ規定ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當請求並ニ屆書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算シ後日債權額ノ補充ヲ許ササルコトトスルニ在リ

第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス
此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ

要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

〔註〕競落ヲ許スノ決定確定シタリト雖モ猶ホ代金ノ支拂及ヒ配當ハ其期日ヲ裁判所カ職權ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス而シテ此期日ハ利害關係人ノ請求ニ依ラス裁判所ノ職權ヲ以テ定ムルモノトスルハ已ニ申立ヲ爲スニ及ハサルノ場合ニ至レルヲ以テナリ且ツ申立ヲ以テ定ムヘキモノニアラサレハナリ

此期日ニ於テハ利害關係人執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出スヘキモノトス

第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ
左ノモノヲ賣却代金トス

- 第一 代金
- 第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

〔註〕支拂及ヒ配當期日ニ於テハ先ツ不動産ノ賣却代金ハ幾何ナルヤヲ定メサルヘカラス此ノ定メタル金額ヲ以テ配當ヲ爲スヘキモノナレハ即チ配當ノ基礎ト爲ルモノナリ而シテ本條ニハ代金ヲ左ノ如ク定メタリ

第一 代金 此ノ代金ハ不動産ヲ競賣シ競落ヲ許可シタル場合ニ於テ競落人カ不動産ノ競落代金トシテ支拂ヒタル金ヲ云フ

第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益トハ例ヘハ借家ノ如キ其他ノ建築物ノ如キ賃貸契約ヨリ常ニ利益ヲ生スルモノナルトキハ競落決定言渡後之ヲ競落者ニ引渡スヘキ時マテ必ス幾分ノ利益ヲ生スルモノナルカ故ニ之ヲ賣却代金中ニ組入ルヘキモノトス

第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

〔註〕裁判所カ配當表ヲ確定スルニハ其ノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配

當ヲ要求スル者ノ如キハ先ツ其要求カ正當ナルヤ否ヤヲ知ルニ必要ナル訊問ヲ爲シタル上ニテ配當表ヲ確定スヘキモノトス是レ其請求者中ニハ不當ノ要求ヲ爲スヘキモノナキニシモアラサルヲ以テナリ

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ

對シ前項同一ノ權利アリ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

〔註〕本條第一項ノ規定ハ配當期日ニ出頭シタル債務者即チ自己所有ノ財産ヲ強制競賣ニ付シテ之カ債務ヲ辨濟スル債務者ニ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其ノ債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アルモノトス而シテ各債權者ノ債權ニ對スル異議トハ其債權ハ之カ辨濟ヲ爲スヘキ義務ナシト云フカ如キ順位ニ對スル異議トハ甲債權者ハ乙債權者ニ先タチテ辨濟ヲ受ケントスルニ乙債權者カ其順位ナリトシテ乙債權者ヲシテ甲債權者ニ先タタシムルカ如キヲ云フ是レ其ノ順位ニ非サル債權者ニシテ他ノ債權者ニ先タチテ自己ノ權利ヲ行フテ之カ爲メニ不利益ヲ受クルノ結果ヲ生スルカ故ナリ債務者ニシテ此異議ヲ申立ツルコトヲ得ルハ其期日ニ出頭シタル者ニ限ルコトヲ知ルヘシ
右ノ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘキハ債務者ノミナラス期日ニ出頭シタル債權者ニ於テモ同様其權利アルモノトス然レトモ債權者ニ於テハ自己ノ利害ニ關シテハ之ヲ申立ツルコトヲ得ルモノト爲セリ而シテ其債權順位ノ如キ必スシモ自己ノ利害ニ關係チ及ホスモノニアラサルヲ以テ之カ異議ヲ申立ツル場合ハ單ニ平等ノ配當ヲ受クヘキ債權者間ノ若ク

ハ自己ヨリ優先權アルコトヲ主張スル債權者クハ其順位ニ付キテハ之カ爲ニ損害ヲ被ルコトアルヘキヲ以テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘキノミ
執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル異議トハ既ニ之カ執行ヲ爲スコトヲ得ヘキ請求ニ對シ債務者カ異議ヲ主張スル場合ニシテ此場合ニハ第五百四十五條第五百四十七條第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結スルモノトナス

第六百九十九條

競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

〔註〕賣却條件トハ賣却スヘキ原因ヲ生シタル條件ヲ云フ語ヲ換ヘテ言ハハ負擔アルカ爲メニ賣却スト云フノ外ナシ是レ不動産ナルモノハ其物件ノ上ニ負擔ヲ有スヘキモノナル

カ故ニ若シ此負擔アルトキハ之ヲ賣却條件トシ即チ之カ爲メニ賣却スト云フコトヲ明ニ示ストキハ競買人ハ已ニ其負擔アルコトヲ認メテ之ヲ引受ケタルモノト云ハサルヘカラス然ルニ其ノ承認シタル負擔ヲ引受ケル外ニ尙ホ配當表ノ實施ニ際シ買入代金ヲ支拂フ代リニ其代金ニ滿ツルマテハ代金ヲ支拂ハスシテ不動産ノ負擔ヲ引受ケルコトヲ得ルモノトス然ルニ是ハ競落人ト不動産上ノ債權者トノ間ニ於テ協議ノ調ヒタル時ニ於テ爲スコトヲ得ルモノナリ是レ競買代金ノ支拂ヲ爲サスシテ不動産上ノ債務ヲ引受ケルコトヲ得セシムルハ双方ニ便益アルヲ以テナリ

若シ夫レ債權者自ラ競落人タル場合ニ於テハ自己ノ負債ハ自己ノ權利ト相殺チ爲スコトヲ得ヘキヲ以テ此ノ場合ニハ競落人タル債權者ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツルマテハ計算ニ因リテ消滅スヘキモノトス然レトモ引受ケヘキ債務又ハ計算スヘキ競落人ノ債權ニ對シ異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂フカ又ハ保證ヲ立テサルヘカラス

第七百條

配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

- 第一 競落人ノ所有權ノ登記
- 第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消
- 第三 第六百五十一條本規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

右登記及抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔ス可シ
〔註〕

第一 競落人ノ所有權ノ登記

競落人ハ競落決定ノ確定ニ因リ競落人ト定マリタルモノニテ配當ヲ實施シタル時ニ於テハ不動産ノ所有者ト爲ル者ナレハ其所有權ヲ登記セサルヘカラス

第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消

不動産上ノ負擔ニシテ競落人ニ於テ之ヲ引受ケサルモノノ記入ハ之ヲ留保スルノ必ナキヲ以テ抹消セサルヘカラス

第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル登記ノ記入トハ競落手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキニ於テ裁判所ヨリ登記判事ニ囑託シテ記入ヲ爲スモノナレハ其競落力決定シテ競落人ニ不動産ノ所有權カ移リタルトキハ已ニ必要ナキニ至ルナリ

第七百一條

數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

〔註〕不動産ノ競賣手續ハ差押債權者ノ一人ナルト數多ナルトニ依リ異ナルヘキモノニアラサルカ故ニ前數ノ一債權者カ差押ヲ爲シ競賣ヲ爲ス場合ニ付テ規定シタルモノヲ以テ

數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲スヘキ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用スルモノトス

五百九十四

第七百二條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

〔註〕強制執行ヲ爲スニハ必スシモ競賣ニ限ルモノニアラス入札ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス即チ競賣期日ノ公告前ニ於テ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ競賣ノ方法ニ因ラスシテ入札拂ヲ爲スコトヲ得ルモノトス入札拂ノ方法ハ各買受人カ買受價額ヲ記シテ之ヲ提出シテ其價額ノ最高ナルモノニ落札セシムルノ方法ナリ

第七百三條

入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 入札人ノ氏名及ヒ住所

第二 不動産ノ表示

第三 入札價額

〔註〕入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出スモノトス其入札ニ記スヘキ諸件ハ本條ニ記載シアル第一ヨリ第三ニ至ル條件ヲ具備スルコトヲ要ス若シ此ノ條件ノ一ヲ欠クトキハ其入札ハ無効トナルヘシ

第七百四條

執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

〔註〕入札ヲ開封スルニハ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ爲シ其入札記載金額及ヒ入札者ノ氏名ヲ朗讀スルモノトス入札中ニ二人以上同額ノ入札アルトキハ何レヲ入札人ト定ムルコト能ハサルカ故ニ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ其中最高價入札人ヲ定ムルナリ一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表スルトハ例ヘハ何某ノ入札價額ヨリ十圓ヲ加フト云フカ如キ方法ニテ之ヲ爲スナク云フナリ此ノ如キ入札ハ之ヲ許サス

第七百五條

最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十

◎第六編強制執行 第二章金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

五百九十五

四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求テ受ケルモ之ヲ立テカ
ルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場
合ニ於テハ最初呼上テ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入
札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

〔註〕入札人ノ方法モ競買人ト同シク保證ヲ立ツヘク求テ受ケ之ヲ立テサルトキハ入札人
ト爲ルコトヲ得サル等ノ規定アリ即チ最高價入札人タル呼上テ受ケタル者之カ保證ヲ立
ツヘキ請求ヲ受ケタルモ之ヲ立テサルトキハ最高入札人ハ其入札人タル資格ヲ失ヒ其次
位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ムルモノトス是レ保證ヲ立テシムルハ入札人ヲシテ
正確ニ其責任ヲ負ハシムルニ在リテ所謂危險ヲ豫防スルモノナリ而シテ最高價入札人ハ
單ニ其資格ヲ失フノミナラス其中出ノ價額ト次位ノ入札人ノ申出價額トノ間ニアル差
價ハシムルコトトセリ此等ノ方法ヲ規定シ置カサレハ一タヒ入札ヲ爲シタルモ之ニ對ス
ル責任者ナクシテ之カ爲メニ再入札ヲ爲サシムルカ如キコトアリテハ費用ヲ嵩ミ或ハ又
其間ニ價額ノ變動ヲ生スル等ノ弊害アルヲ以テナリ

第三款 強制管理

第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三
條、第六百四十四條第一項、第三項及ヒ第六百五十一條乃至第

六百五十四條ノ規定ヲ準用ス
不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負タル場合
ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證
書ハ不動産ヲ債務者カ占有スルコトヲ疏明スル證書ヲ以テ
足ル

〔註〕強制管理トハ前ニ述ヘタル如ク債務者ノ財産ヲ債務者ニ處分又ハ行使セシメスシテ
債權者ニ於テ之ヲ管理シ其財産ヨリ生スル收入ヲ得ル方法ニシテ強制競賣ニ代ヘテ爲ス
ヘキ方法ナリ而シテ如何ニシテ之ヲ管理スルヤノ規定ハ強制競賣ニ關スル規定ヲ適用ス
ル場合多シ本條ハ即チ強制競賣ニ關スル規定ニシテ強制管理ニ適用シ得ヘキ條項ヲ明示
シタルモノナリ

本條第二項ハ強制管理ノ請求ヲサントスル債權者ニ於テ其不動産上ニ債權ヲ有スルト
キハ第六百四十三條ノ第一號及ヒ第二號ニ規定シタル證書即チ差押債權者カ其權利ヲ證
明センカ爲メ登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タル
コトヲ證明スヘキ證書ヲ提出スルヲ要セスシテ只其證書ハ不動産ヲ債務者カ占有スルコ
トヲ疏明スル證書ヲ提出シテ十分ナリトス

第七百七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管

理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ収益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ収益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ、

既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ収益ニ屬ス
開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

〔註〕強制管理ヲ開始スヘキ決定ヲ爲ストキハ裁判所ハ債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ヨリ生スル収益ヲ處分スルコトヲ禁スルハ強制管理ノ效力トモ謂フヘキナリ強制管理ヲ爲スモ仍ホ債務者ニ於テ其不動産ヲ支配スヘキコトアルトキハ管理ノ實ナキニ至ルナリ

又其不動産ヨリ生スル収益ヲ債務者ニ給付スヘキ第三者アルトキ例ヘハ賃貸契約ニ因リ其不動産ヲ借受ケ其賃貸料ヲ不動産所有ノ債務者ニ支拂ヲ爲スカ如キ場合ニ於テハ其第三者ニ對シ債務者ニ支拂フヘキ収益ハ自今之ヲ管理人ニ爲スヘキ旨ヲ命スルモノトス其収益ト云フニ付テハ如何ナル物ヲモ収益ナリトスルヤト云フニ既ニ收穫シタルモノハ

勿論今現ニ收穫シツツアル物又ハ收穫ノ期限ノ到來シタルモノ若クハ最早到來ニ近キ果實及即チ米穀及ヒ不動産ノ賃貸料等ナリ

開始ノ決定ハ第三者ニ對シテ送達ト共ニ效力ヲ生スルモノトス此ノ送達アリタル時ヨリ強制管理ハ開始セラレタルモノニテ其不動産ハ法律ノ拘束ヲ受クルモノナリ而シテ此ノ送達ハ申立ニ因ルモノニアラスシテ裁判所カ職權ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

第七百八條

裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス
假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セ

〔註〕本條ハ第六百四十五條競賣手續開始ノ決定ニ關スル規定ト同一ナリ即チ不動産ニ對シ債權者ヨリ強制管理ヲ求メ之カ開始ノ決定ヲ得タルトキハ其ヨリ以後ハ同一ノ不動産ニ付キ更ニ強制管理ノ申立ヲ爲ス者アルモ裁判所ハ再ヒ之ニ對シテ開始決定ヲ爲スコト

ヲ得ス

六百

然レトモ其申立ヲ爲シタル者ハ執行記録ニ添付スルニ依リ配當ヲ爲スノ期日ニハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ヘク尙且ツ既ニ開始シタル強制管理ノ取消トナリタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生シ強制管理ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルナリ

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ前項ノ規定ハ之ヲ適用セス是レ本條ノ場合ハ既ニ確定シタル權利ヲ以テ強制執行ヲ爲シタル不動産ニ付テ定メタルモノナレハ假差押ノ如キ單ニ債權ヲ擔保スル爲メ債權者ヨリ不動産ノ處分ヲ差止メタル物ニ付テハ妨ケララルコトナク其不動産ニ對シテモ強制管理ノ請求ハ開始ノ決定ヲ受クルコトヲ得ヘキナリ

第七百九條 配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第七百十條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ

〔註〕執行裁判所ニ於テ前二條ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ債權者及ヒ債務者ニ通知セサルヘカラス是レ強制管理ノ開始決定ヲ受ケタル債權者ハ強制管理上獲得スヘキ所ノ收益ニ大影響ヲ及ホスヘキカ故其ノ通知ヲ受クルコト最モ必要ナルヘシ又債務者ニ於

テハ第二ノ債權者ノ要求ハ正當ナルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス而シテ管理人ニ至テハ直接收益上ノ損害ヲ受ケスト雖モ自己ノ職務上收益ノ給付等ニ付テ之ヲ知ルノ必要アレハナリ此等ノ關係上ヨリ裁判所ハ本條ノ通知ヲ爲ササルヘカラスナリ

第七百十一條 管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス

〔註〕管理人ハ裁判所力之ヲ任命スル所以ハ管理タル者ハ債權者カ強制執行ヲ爲シタル不動産ヲ管理シ其收益ヲ全フシ債權者ニ給付シ又一方ニハ債務者ノ爲メニモ其不動産ニ損害ヲ加ヘサルコトニ注意シ最モ公平ヲ守リ不動産ノ管理ヲ爲スヘキ責任アルモノナレハナリ然レトモ債權者ヨリモ適當ノ人ナリト認メタルトキハ之ヲ推選スルコトヲ得ルモノトス而シテ其ノ適否ハ裁判所ノ認定ヲ受ケサルヘカラス

第二項ハ管理人ノ管理ノ權限ヲ規定シタルモノナリ即チ管理及ヒ收益ヲ爲スニ付テ其不

動産ヲ占有スル權ヲ有ス占有權トハ自己ニ所有權アルト同一ノ權利ヲ行フヲ云フ故ニ其管理ニ付テ他ヨリ抵抗即チ之ヲ妨クル者アルトキハ執達吏ヲ立會ハシメテ抵抗テ防衛スルコトヲ得ルナリ

管理人ハ債務者ニ代リテ第三者カ債務者ニ給付スヘキ收益即チ前ニ例シタル土地家屋等ノ不動産ヲ賃貸シタル場合ニ其賃貸料ヲ第三者ニ對シテ申立ツルコトヲ得ル權ヲ授與セラルルモノトス故ニ管理上ノ收益ハ總テ管理人ノ手中ニ收ムルモノトス又第三者ニ於テハ管理人ノ取立ニ應シ債務者ニ向テ爲スヘキ給付ヲ管理人ニ對シテ爲スヘキ責任アルモノトス

第七百十二條

裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又

適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人

ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬

ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ二拾圓以下ノ過料ヲ

言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

〔註〕裁判所カ債權者及ヒ債務者ヲ審訊スルトハ例ヘハ土地家屋ノ如キモノニ付テハ如何ニシテ管理ヲスルトキハ利益ナラン等ノ調査ヲ爲スニ付テ審訊スルヲ云フ裁判所ハ之カ

審訊シタル後適當トスルトキ即チ特別ノ事情ニ明カナラサレハ之カ調査決定ヲ爲ス能ハサルトキハ鑑定人ヲ命シテ之カ鑑定ヲ爲サシメ其結果ニ依リ管理人ニ管理上必要ナル指揮ヲ爲ササルヘカラス又管理人ニ於テハ裁判所ヨリ指揮ヲ受ケタルトキハ其指揮ニ從ヒ管理ヲ爲スヘキハ勿論ナリ而シテ管理人ハ好意上爲スヘキモノニアラサレハ一定ノ報酬ヲ受ケルコトヲ得ルナリ

前項ニ於テ管理人ノ責任ヲ定メ報酬ヲ與フルコトト爲シタルヲ以テ管理人ニ於テ十分ニ其職務ヲ盡ササルヘカラス而シテ其職務上ニ付テハ裁判所ハ常ニ之ヲ監督スルモノトス此ノ如ク嚴格ニ定メタル上ハ管理人カ十分其ノ職務ヲ盡ササル場合ノ制裁ヲ設ケサルヘカラス即チ裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ二十圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得ルモノトス

第七百十三條

第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨

クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

〔註〕強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキトハ強制管理ヲ命セラルヘキ不動産ニ付キ第三者カ自己ニ所有權アリト主張シ其他不動産ニ對シテ債權アリト云ヒテ目的物ノ管理ヲ妨ク可キ權利ヲ主張スル場合ニシテ此場合ニハ何レカ一ノ權利ヲ正當ト定メ他ノ正當ナラサル權利ヲ排斥セサルヘカラス而シテ此ノ場合ニハ第五百四十九條ノ規定

ヲ準用スルモノトス即チ該條ハ第三者カ權利ヲ爭フトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ強制執行ニ對スル異議ヲ主張シ若シ債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナラストキハ之ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ主張スヘキモノト定メタリ此ノ場合ニハ債權者及債務者ハ共同被告人タルヘキモノニテ其裁判所管轄ハ執行裁判所ト爲シ若シ其目的カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ於テ之ヲ管轄スヘキモノト爲セリ今此ノ規定ニ依ルトキハ強制管理ヲ妨クヘキ權利ヲ主張スル第三者ハ訴ヲ以テ強制管理ニ關スル異議ヲ債權者ニ主張スヘキ者ニテ若シ第三者ノ主張スル權利ヲ債務者ニ於テ正當ナラストキハ第三者ハ債權者及ヒ債務者ヲ共同被告人トシテ訴ヲ起スヘキモノナリ

第七百十四條

管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ

其不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出スヘシ
前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作り其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可

シ

〔註〕不動産ニハ負擔アルコトハ前ニモ述ヘタルカ如シ其負擔トハ租稅其他ノ公課即チ地租地方稅及ヒ郡市町村ヨリ其不動産ニ課スヘキモノヲ云フ此等ノ負擔ハ第一ニ支拂ヲ爲ササルヘカラサルモノナレハ管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ニ負擔スル租稅其他ノ公課ヲ引去リ而シテ後チ別段ノ手續ヲ用ユル處ナク管理ノ費用ヲ辨濟スルモノトス此ノ費用モ第二ノ負擔タルヘシ若シ此ノ管理ヲ爲ササルトキハ債權者ハ満足ニ自己ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得サレハナリ此ノ二箇ノ負擔ヲ控除シタル殘額ヲ以テ配當ヲ爲スヘキモノトスレトモ其ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツヘシ

裁判所ニ於テハ右ノ届出アリタルトキハ民法商法及ヒ特別法ノ規定ニ從ヒテ配當ヲ爲スヘキ決定ヲ與ヘサルヘカラス尙且ツ第六百九十六條ノ規定ニ照シテ配當表ヲ作り其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシムヘシトス

第七百十五條

管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權

者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ
各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

◎第六編強制執行 第二章金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス
異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシムヘシ

〔註〕管理人ハ毎年及ヒ其業務結了後各債権者及ヒ裁判所ニ向テ其在職中ノ計算書ヲ差出ササルヘカラス管理ハ裁判所ノ監督ヲ受ケ居リテ爲シタルモノナレトモ若シ管理人ノ任務十分ニ盡サスシテ結了シタルトキハ債権者及ヒ債務者ハ爲メニ損害ヲ受ケサルヘカラサルヲ以テ若シ其計算書ニ付テ不適當ト認ムル場合ニハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス而シテ其異議ハ計算書ヲ受取リタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ向テ爲スモノトス

右期間内ニ債権者及ヒ債務者ニ於テ異議ノ申立ヲ爲ササルトキハ計算ニ付キ全ク異議ナキモノト看做サレ計算ニ付キ異議ナキモノトスルトキハ是ニ於テ管理人ハ其任務ヲ全フシ終リタルモノトナルカ故ニ又卸任ヲモ承諾シタルモノト看做サルナリ

之ニ反シテ債権者及ヒ債務者ヨリ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ其申立ニ付キ調査ヲ爲シ管理人ヲ審訊シタル後其異議ノ正當ナルヤ否ヤヲ裁判シ而シテ其異議ノ申立カ

完結シテ管理人ノ爲セシ處ハ正當ナルトキ又ハ前項ノ規定ノ如ク全ク異議ナキモノトナル場合ニ於テハ裁判所ハ管理人ヲシテ其任務ヲ卸サシムヘキモノナリ

第七百十六條

強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債権者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキハ債権者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

〔註〕強制管理ヲ取消ス場合ハ本條第二項及ヒ第三項ノ條件アルトキニ之ヲ取消サルヘキナリ第二項ハ即チ各債権者カ不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキニ在リトス辨濟ヲ得ンカ爲メニ強制管理ヲ爲スヘキモノナレハ其辨濟ヲ終リタルトキハ強制管理ヲ爲スノ必要ハ止ミタレハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ取消スモノトス第二ノ取消ノ原由ハ債権者ノ怠慢ヲ理由トシタルモノナリ管理ヲ爲スニハ特別ノ費用ヲ要スル場合之レアルヘシ此ノ

費用ハ債權者ニ於テ其金額ヲ豫納セサルヘカラス然ルニ之ヲ豫納セサルトキハ管理ヲ續行スルコト能ハサルヲ以テ裁判所ハ之ヲ取消シ命スルコトヲ得ルモノトス
強制管理ノ取消ヲ命シタルトキハ裁判所ハ登記判事ニ其ノ記入ノ抹消ヲ囑託セサルヘカラス是レ強制管理ヲ命スヘキ決定ヲ爲シタルトキ之ヲ記入ヲ爲シタルカ故ニ之ヲ取消シタルトキハ其記入ヲ抹消スルハ當然ノコトナリ

第三節 船舶ニ對スル強制執行

〔註〕船舶ハ元ト動産ノ性質ナルモノナレトモ多クハ不動産ニ類スル所アルヲ以テ法律ハ不動産ト同シク看做シ不動産ニ關スル規定ヲ適用スルナリ故ニ強制執行ニ付テモ不動産ノ規定ヲ適用スルコト多シ

第七百十七條

商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

〔註〕船舶カ他ノ動産ト全ク異ナリ不動産ニ近ク乃チ船舶ニ適用スヘキ法律ノ規定ハ不動

産ニ關スル原則若シハ之ニ類スル原則ノ多キコト頗ル有力ノ理由タリ例ヘハ(一)登記ナルモノハ不動産ニ關スル一制度ニシテ動産ニ關シテハ存在セザリシ所ナルニ船舶ニ付キ之ヲ存スルカ如キ(二)船舶ハ抵當權ノ目的ト爲ルコト不動産ニ類スルカ如キ(三)船舶ノ強制競賣ハ大体ヨリスレハ不動産ニ關スル規則ト同一ナルカ如キ(四)一般ノ動産ト異ナリテ即時々效ノ規定ヲ適用セサルカ如キ(五)取得時効ノ期間ニ付キ他ノ動産ト異ナリ不動産ト同一ナルカ如キ是ナリ

本法カ船舶ニ對シテ強制管理ヲ爲スハ不動産ト同一ニ取扱フノ理由ヨリ出タルモノナリ而シテ茲ニ所謂船舶トハ商船其他ノ海船ヲ云フモノニシテ常ニ艦及ヒ櫓ノミヲ以テ運轉シ又主トシテ櫓權ノミヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セストス
此等ノ小船ハ前ニ述ヘタル不動産ト同一ノ理由ヲ具ヘサルモノナレハナリ要スルニ帆船及ヒ蒸氣力ヲ以テ海洋ヲ航行スル船舶ヲ指シテ云フモノナリ

第七百十八條

船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

〔註〕船舶ノ強制競賣ニ付テハ執行裁判所ハ何レノ裁判所カ之ヲ管轄スルモノナルヲ定メサルヘカラス本條ハ即チ船舶カ差押ヘラレタル當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トスト規定セリ蓋シ船舶ハ航行中ニハ差押ヲ爲スコト能ハサルハ必ス其ノ碇泊スルヲ俟チ其港ヲ管轄スル區裁判所ニ請求シテ之ヲ差押ヘサルヘカラス

第七百十九條

船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

〔註〕船舶ニ對シ差押ヲ爲シタルトキハ其船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ碇泊セシムヘシ然レトモ商業上他ヘ廻漕スルトキハ大ナル利益アルトキニ於テハ強テ碇泊セシメテ却テ關係者ニ損失ヲ加フルカ如キコトヲ爲スヘキモノニアラサレハ此ノ場合ニハ利害關係人カ航行ヲ爲サシムヘシト合意シタルトキハ其ノ航行ヲ許スコトヲ得ルモノトス而シテ利害關係人中一人タリトモ航行ヲ爲サシムルニ付テ異議ヲ主張スル者アルトキハ裁判所ハ航行ヲ許スコトヲ得サルナリ

第七百二十條

強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ

- 第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ説明スルニ足ル可キ證書
- 第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄

本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アラシムコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

〔註〕船舶ノ強制競賣ニ付テノ申立ヲ爲サントスルニハ本條ノ第一號及ヒ第二號ノ證書ヲ提出シテ之ヲ申立テサルヘカラス而シテ第一號ハ債務者カ船舶ノ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者タル確實ノ證明即チ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ説明スルニ足ルヘキ證書ヲ添付スヘシトス第二號ハ船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本ヲ添付シテ之ヲ申立ツヘシ

然レトモ其ノ差押ノ地ト登記ノ地ト甚々遠隔スルコト多シ此ノ場合ニモ登記所ニ抄本ノ請求ヲ爲スハ債權者ニ於テ困難ナルヲ以テ法律ハ強テ之ヲ履行セシメス即チ此ノ場合ニハ之ヲ執行裁判所ニ申立テテ登記抄本ヲ求ムルコトヲ得セシメタルナリ

第七百二十一條

裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス

若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

〔註〕船舶ハ他ノ不動産ト異ナルモノニシテ之カ差押ヲ爲スニ付テモ亦特別ノ規定ヲ要スルコトアリ即チ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲スコト是ナリ是レ船舶ハ移轉シ得ルコト容易ナルヲ以テ之カ監守ヲシテ之ヲ防カサルヘカラス又船舶ハ損傷シ易キモノナレハ之カ保存ノ必要モ他ノ不動産ニ比シテ多カルヘシ故ニ法律ハ船舶ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リテ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシムヘシトス
此ノ處分ヲ爲シタルトキハ強制管理開始決定ノ前ト雖モ差押ノ效力ヲ生スルモノトスルナリ其ノ理由ハ他ノ不動産ト同一ノ手續ニ依リテ差押ヲ爲スヘキモノトスルトキハ遂ニ執行ヲ全フスルコト能ハサルニ至ルヘキカ故ナリ然レトモ此ノ處分ヲ爲スニ付キ要スル費用ヲ債權者ニ於テ其金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ其ノ爲シタル處ヲ取消スコトヲ得ルモノトス

第七百二十二條

船舶ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス
差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル

〔註〕船長タル者ハ船舶所有者ノ權利ヲ行フコトヲ得ル場合多クシテ船長ノ行爲ハ船舶所有者ニ於テ其責任ヲ負フコトトスル場合多キモノナリ故ニ船長ニ對シテ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ亦效力アルモノトス而シテ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス即チ差押ヲ受ケタル者ト同一ノ關係ヲ生スルナリ故ニ一旦船舶債權者カ差押ヲ爲シタルトキハ之ヨリ以後ニ於テ船舶ノ所有者若クハ船長ニ變更ヲ生スルコトアルモ差押ハ手續ノ續行ヲ妨ケサルモノト爲セリ船舶カ差押ヲ受ケタル後ニ船長ト爲リタル者ハ亦其差押ニ付テハ利害關係人トナス此場合ニ於テハ前ニ差押ヲ受ケタル當時ニ船長タリシ者ハ船長ノ職ヲ離ルルト同時ニ關係人タル責任ヲ免ルルコトト爲ルナリ

第七百二十三條

船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消ス可シ

〔註〕船舶ハ常ニ航行シテ時々其ノ存在スル處ヲ異ニス從テ其ノ管轄裁判所モ船舶カ動クニ因リ亦異ニスルハ當然ナリ即チ船舶カ差押ノ當時其裁判所ノ管轄内ニ存セサリシコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消スモノトス是レ船舶ニ關スル執行裁判所ノ管轄ハ船舶ノ

存在ニ因リテ定マルヘキモノナレハナリ然ラハ則チ船舶ハ差押ヲ受クルマテハ一定シタル管轄ヲ有セサルモノニシテ差押ヲ爲スノ當時其裁判所ノ管轄内ニ現存シタルトキハ假令ヒ其後ニ變動ヲ生スルモ差押ヲ爲シタル裁判所ハ執行裁判所トシテ之ヲ管轄スヘキモノトス

第七百二十四條 競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號

ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ

〔註〕船舶ニ對スル強制執行ハ不動産ニ關スル強制競賣ノ規定ヲ準用シテ競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ即チ其第一號ニ於テ不動産ノ表示トアルノ規定ヲ變更シテ船舶及ヒ其碇泊ノ場所ヲ表示シ其他ハ皆該條ノ規定ニ準シテ公告ニ之ヲ掲クヘキモノトス

第七百二十五條 定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シ

タルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ掲示板ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ

〔註〕定繫港トハ船舶ノ碇泊スル本據ニシテ人ノ住所ヲ定ムルニ生活ノ本據トスル所ヲ以

テ本據ト爲スニ同シ其船舶ニ關スル重要ナル事件ハ此ノ定繫港ニ於テ之ヲ行フモノトス故ニ執行裁判所ニ於テ差押ヲ爲シタル船舶ニシテ其ノ裁判所ノ管轄内ニ定繫港ヲ有セサル場合ニ於テハ定繫港ニ於テモ亦競賣ニ關スル公告ヲ爲ササルヘカラス蓋シ定繫港ニ於テハ其ノ船舶ヲ知ル者多クシテ從テ其ノ競買ニ加ハランコトヲ望ム者モ亦多カルヘキヲ以テ競賣結果ノ満足ヲ得ントスルニハ可成廣ク公告シテ普ク之ヲ知ラシムヘキニ在リ然ラハ則チ尤モ關係人多キ定繫港ニ公告スルヲ必要トス故ニ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ掲示板ニ揭示スヘキコトヲ囑託セサルヘカラス

第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十

五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

〔註〕船舶ノ股分トハ其ノ船舶ヲ數人ニテ共有ニ屬スル場合ニ於テ其各人ノ有スル持分ヲ云フ即チ船舶ノ全部ニ對スル強制執行ニ非スシテ一部即チ股分ニ對スル強制執行ヲ爲スニハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スモノトス該條ノ規定ハ共有不動産ノ一部ニ付テ強制執行ヲ爲ス場合ヲ規定シタルモノナレハ之ヲ適用スルハ當然ナルヘシ而シテ其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄スルモノトス是レ全部ノ管轄ハ船舶ノ所在地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ管轄スルコトアレトモ一部ノミニ對スルトキハ必ス定繫港ノ區裁判

所之ヲ管轄スルモノトスルハ次條ノ規定ニ依テ自ラ知ラルヘシ

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ
 股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄
 本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添付ス可シ
 差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ
 差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達
 スルト同一ノ效力ヲ生ス

〔註〕船舶所有者一人ナルトキハ其所有者ヲ別ニ證明スヘキ必要ナキモ共有ニシテ各股分
 アルトキハ其股分カ果シテ債務者ノ所有ニ屬スルモノナルヤ否ヤヲ證明スルノ必要アル
 ヘシ何トナラハ若シ該債務者ノ所有ニ屬スルモノニアラサルカ如キ場合ヲ慮リテ裁判所
 ハ直チニ差押命令ヲ爲ササルヘシ故ニ債權者ハ之ヲ證明スル爲メニ船舶登記簿ノ抄本又
 ハ信用スヘキ證明書ヲ添付セサルヘカラス

差押命令ハ債務者ニ送達スル外尙ホ船舶管理人ニモ之ヲ送達セサルヘカラス是レ管理人
 ハ船舶ニ對スル一切ノ支配ヲ爲ス者ナレハ此者ニシテ差押ヲ知ラサルトキハ其ノ權利拘
 束上ニ於テ關係スレハナリ
 差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達シタルトキハ債權者ニ對シテ之ヲ送達シタルモノト同

一ノ效力ヲ生スヘキモノトス是レ債務者ハ債務ヲ負擔スルコトハ固ヨリ承認シ居レハ其
 差押ニ付テノ方法ニ依リテ異議ヲ主張スルコトヲ得サルモノナレハ船舶管理人ニ對シテ
 差押ヲ爲シタリトテ債務者ニ於テ之ヲ拒ムヘキ理由ハ之レアルヲ見サレハナリ

第七百二十八條 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百
 二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

〔註〕第六百二十六條以下ノ規定ハ強制競賣ノ配當手續ニシテ此ノ配當手續ハ船舶股分ニ
 對シ強制執行ヲ爲シタル場合ニ於テモ之ヲ適用スヘシトスルナリ彼ノ條ハ動産ノ強制執
 行ヲ爲シ之ヲ競賣ニ付シ其賣却代金ヲ配當スル場合ニシテ本條ハ船舶ノ競賣代金ノ配當
 ヲ爲ス場合ナレトモ其強制競賣ノ代金ヲ配當スルニ於テハ異ナルコトナクシテ別ニ之カ
 規定ヲ設クルノ必要ナケレハナリ

第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ
 登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手
 續ニ關スル規定ヲ適用セス

〔註〕船舶ヲ強制競賣ニ付スルトキハ之カ登記ヲ爲スヘキコトハ前ニ既ニ見エタル所ナリ
 此等ノ船舶ハ登記簿ニ登記シアルモノナレハナリ然ルニ外國ノ船舶ノ如キ又ハ日本ノ船
 舶ト雖モ登記簿ニ登記セサルモノアリ此等ノ船舶ヲ差押タルトキハ登記簿ニ記入スヘキ

手續ニ關スル規定ヲ適用セサルモノルナコトハ甚タ視易キノ道理ナルヘシ

第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

第七百三十條 債權者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債務者ニ引渡ス可シ

〔註〕金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權トハ債務者カ特定ノ動産例ヘハ晝幅一軸屏風一雙ト云フカ如ク彼ノ何品斯ノ何品ト特定メタル物件ヲ引渡スヘキ義務ヲ負擔スルトキナ云フ又代替物ノ一定ノ數量トハ例ヘハ酒五斗入壹樽米何俵ヲ引渡スノ義務アリト爲スカ如キナ云フ此ノ場合ニ於テ債務者カ其義務ヲ盡サシテ之ヲ引渡ササルトキハ強制執行ヲ以テ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡スヘキモノトス

第七百三十一條 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ
此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務

者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ
債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ
債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許否ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ控除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

〔註〕債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡スヘキ義務アルトキハ速ニ其義務ヲ盡ササルヘカラサルニ其ノ請求ニ應セサルトキハ債權者ハ執達吏ヲ以テ之カ明渡シヲ爲サシメ又ハ引渡サシメサルヘカラス而シテ尙ホ應セサルトキハ執達吏ハ引渡スヘキモノニ付テハ其抵抗ヲ排除シ占有ヲ解キ明渡スヘキモノニ付テハ其退去ヲ命スヘキモノトス

右ノ如キ執行ハ債權者若クハ其代理人カ受取リノ爲メ出頭シタルトキニアラサレハ此方法ヲ行フコトヲ得ス是レ債權者ヲシテ占有ヲ得セシムルコトニ至テハ其場所ニ臨マサルハ之ヲ占有スル能ハサルコトナレハナリ即チ債權者自身ニ出頭スルカ少クトモ代理人ヲシテ之ニ臨マシムルトキニ限ルモノトス

強制執行ノ目的物ニアラサル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡スヘシトス是レ強制執行ノ目的物ニアラサレハナリ若シ債務者カ不在ナル場合ニ於テハ其代理者又ハ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡スヘキモノトナセリ而シテ茲ニ成長シタル家族ト云フハ十四五歳以上ノ者ヲ云フカ何トナラハ只此場合ニ於テハ普通人事ヲ辨ヘ得ル者ナラハ足レリトスルノ法律ノ精神ナリ

債務者及ヒ前ニ掲ケタル者不在ナルトキハ此物件ヲ引渡スコト能ハサルヲ以テ此ノ場合ニ於テハ債務者ノ費用ヲ以テ保管セシムルコトトス

債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキキハ次項ニ依リ保管ニ付シタルモノヲ何時マテモ受取ラサルトキハ之ヲ際限ナク保管ニ付スルコトヲ得サルヲ以テ執達吏ハ裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ヲ爲ス手續ニ依リテ之ヲ賣却シ其費用ヲ引去リタル後チ其代金ヲ供託スルモノトス

第七百三十二條

引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

〔註〕債權者ノ請求スル物件カ第三者ノ手中ニ在ルトキハ其ノ引渡ノ請求ハ債權者ノ申立ニ因リ債權者カ直接ニ第三者ニ對シ物件ノ引渡ヲ請求スル方法ニ依リ之ヲ債權者ニ轉付

スルモノトス此ノ如ク爲ササレハ強制執行ニ依リ物件ノ差押ヲ爲ス場合ニ於テハ債權者ハ常ニ無資力ニシテ債權者ニ損害ヲ加フルノ危険アルヲ以テナリ故ニ本條ノ規定ヲ設ケ其手數ト危険トヲ除クモノトス而シテ其ノ方法ハ金錢ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒ即チ債務者カ第三者ニ對シ債權ヲ有スルトキ債權者ノ請求ニ因リ其債權ニ對シ差押ヲ爲スモノトス

第七百三十三條

民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アラソコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

〔註〕民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ債務者カ作爲ノ義務ヲ怠リテ爲サヌ又ハ不作爲ノ義務ニ背キタルトキ債權者ニ於テ債務者ノ費用ヲ以テ處分ヲ爲スノ場合ナリ此場合ニ於テハ損害ヲ加フルノ恐レアルカ故ニ債權者ハ第一審ノ受訴裁判所ニ向テ第三者ニ其義務ヲ盡サシメソコトノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトス而シテ受訴裁判所ハ其申

立カ果シテ第三者ニ於テ爲シ得ヘキコトナルヤ否ヤヲ審案シテ第三者ニ於テ爲シ得ヘキ
場合ニ於テハ民法第四百十四條第二項第三項ノ規定ニ照ラシ之カ決定ヲ爲スモノトス
而シテ第三者ニ其行爲ヲ爲サシムルニハ費用ヲ要スルカ故ニ債權者ハ其費用ヲ前以テ債
務者ニ於テ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アラントテ申立ツルコトヲ得ルモノトス是レ
元ト債務者ノ爲スヘキ義務ヲ爲ササルニ因ルモノナレハナリ
然レトモ債權者ハ豫算ヲ以テ費用ノ額ヲ定メタルモノナレハ過不足ノ場合ノ生スルコト
アルヘシ故ニ實際ニ臨ミ既ニ決定セラレタルヨリ多額ノ費用ヲ要スルトキハ債權者ニ於
テ其損失ヲ負擔スヘキノ理由ナキヲ以テ其ノ豫算外ノ費用ハ債務者ヨリ之カ請求ヲ爲ス
コトヲ得テ豫算決定ノ爲メニ此權利ヲ失フコトナシ

第七百三十四條

債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第
一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定
メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遅延ノ期間
ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ
爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス

〔註〕債務ノ性質カ強制履行ヲ許スモノトハ債務者ニ限リ爲スコトヲ得ヘキ債務ヲ云フ即
チ例ヘハ繪畫ノ如キ手工ノ如キ技術ニ係ル事ニシテ他人カ代リテ爲スコトヲ得サル技術

ニ屬スルナリ此ノ債務ヲ怠リタルトキハ之ヲ強制シテ必ス履行セシメントスル場合ニハ
裁判所ハ債權者ノ請求ニ因リ債務者自ラ之ヲ盡スヘキコトヲ相當ノ期間ヲ定メ例ヘハ何
月何日マテニ必ス之ヲ履行スヘシト命令ヲ爲ス而シテ其期間ハ最終ノ期間ナルヲ以テ若
シ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遅延シタル期間ニ應シ裁判所ハ賠償額ヲ定メテ之
ヲ言渡スカ又ハ一定ノ賠償ヲ爲サシメスシテ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ
要ス

第七百三十五條

前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲
スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

〔註〕前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ是レ既ニ確定シタル債
權ニ對スル強制履行ノ言渡ナルカ故ナリ然レトモ決定ヲ爲ス以前ニ於テ債務者ヲ審訊ス
ルモノトスルハ即チ債務者ニ於テ此ノ請求ニ對シ直チニ之ヲ履行スルヤ否ヤ又債權者ニ
對シ賠償ノ責アルモノナレハ之ニ應スルヤ否ヤヲ豫メ確ムルノ必要アルヲ以テナリ

第七百三十六條

債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト
又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルト
キハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモ
ノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲

ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

〔註〕訴訟ノ目的カ權利關係ノ成立ヲ認諾スヘキコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲スヘシトノ判決ヲ受ケタル場合ニ義務ヲ有スル者ニアラサルトキハ其ノ判決ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ又反對ノ意思ヲ有スル者ナラハ其意思ノ陳述ヲ爲スヘキニ之ヲ爲ササルトキハ認諾ヲ爲シ又ハ反對ノ意思ナキニ因ルモノト看做サルナリ

反對給付ノアリタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合トハ債務者カ其責ヲ負フハ請求者ニ於テ或物ノ給付ヲ爲シタルニ因リ初メテ生スヘキ場合ヲ云フモノニシテ此場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生スルモノトス

第四章 假差押及ヒ假處分

第七百三十七條 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得
假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

〔註〕假差押ハ債權者ノ債權カ債務者ニ對シ或ル定額ノ金錢ヲ求ムルカ又ハ直接ノ請求ハ金錢ニ在ラサルモ其請求ノ目的ヲ債務者ニ於テ履行セサル場合ニ於テハ之ヲ金錢ニ換ヘテ債務者ヨリ履行セシムヘキニ付テ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス語ヲ換ヘテ言ハハ債務者カ其動産又ハ不動産ヲ以テ債權者ニ義務ヲ辨濟スヘキニ裁判ノ確定セサルニ乘シ自由ニ其物件ヲ處分シ判決確定ノ場合ニ至リテ執行ヲ爲スヘキ物件ナキニ至ルノ恐アルヲ以テ此ノ危險ヲ防クカ爲メニ債權者ノ請求ニ因リ其物件ヲ保全スル爲メ假差押ヲ爲スナ云フ
右ノ理由ニ因リテ爲スモノナレハ假差押ハ債務カ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス是レ債權者ニ於テ或ル場合ノ危險ヲ豫防スルニ在レハナリ故ニ若シ期限ノ到來ヲ待ツトキハ其ノ危險ヲ防ク能ハスシテ爲メニ債權者ハ損害ヲ被ムルニ至ルヲ以テナリ

第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

〔註〕假差押ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハストハ例ハハ動産物取戻ノ場合ノ如

キ買主ヨリ未タ代價ヲ受取ラスシテ物件ヲ轉付シ之カ代金ヲ支拂ハス又其ノ物件ノ返還
ヲモ爲ササルカ如キ場合ニ於テハ其物件ノ假差押ヲ爲サレハ其物件ハ買主ヨリ第三者
ニ移轉シ遂ニ其物件ヲ取戻スコトヲ得サルカ如キコト之レアルノ恐レアルトキハ假差押
ヲ爲シテ而シテ後チ判決ノ執行ヲ爲スモノトス又判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生ス
ル恐レアルトキ殊ニ外國ニ於テ之ヲ執行スルニ至ルモノノ如キハ執行保全ノ方法ヲ盡サ
サレハ其物件ノ滅失若クハ債務者カ逃亡ヲ爲ス等ノ恐アル場合ノ如キハ執行ヲ爲スニ著
シキ困難ヲ生スル場合ナリ

第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假ニ差押フ可キ物ノ所在地
ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

〔註〕假差押ノ命令ハ假差押ヲ爲スヘキ物件ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所及ヒ本案ノ管轄
裁判所之ヲ管轄スルモノトス然ラハ則チ其之ヲ請求スル者ノ選擇ニ任セタルモノナリ故
ニ若シ假差押ヲ爲サントスル者ハ其訴ヲ管轄スル區裁判所若クハ其本案ヲ管轄スル地方
裁判所ニ向テ之ヲ申請スヘシ本案ヲ管轄スル裁判所トハ其請求金額カ地方裁判所ノ管轄
ニ屬スルモノナルトキハ本訴ト共ニ假差押ヲ求ムルヲ云フナリ此ノ二箇ノ裁判所ノ中何
レノ裁判所ニ之ヲ申請スルモ隨意ナリトス

第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

- 第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルト
キハ其價額
- 第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示
請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ
申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

〔註〕本條ハ假差押ヲ求メントスルトキ申請ノ要件ヲ定メタルナリ而シテ其要件ハ第一第
二ノ要件ヲ具備スルモノトス若シ此ノ一ヲ缺クトキハ申請ヲ爲スコトヲ得ス

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額
請求ノ表示トハ債務者ニ係リ金何百圓ナリト云フ場合ニ其金額ヲ記載スヘキコトナリ而
シテ其請求ニ貸金何百圓ト云フカ如キニアラスシテ米何石ト云フカ如キ物件ナルトキハ
其請求ノ目的ノ價額ヲ記載スルヲ云フ

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示
例ヘハ賣掛代金又ハ貸付タル金額ヲ辨濟セサルヲ以テ之カ取立ヲ請求スルト云フカ如キ
理由ト事實トヲ記載スヘシ

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明スヘキトハ即チ明治何年何月何日債務者ニ貸付タル金
額ハ既ニ辨濟期限ノ經過シタルニモ拘ハラヌ未タ辨濟ヲ成ササルカ故之カ請求ヲ提起シ

タリト云フカ如キ事實ヲ立證シテ申立ツルチ云ヒ假差押ノ理由トハ若シ債務者ノ財産ヲ假ニ差押サルトキハ何々ノ危険ヲ生スルノ恐レアルチ以テ執行保全ノ爲メニ假差押ノ命令ヲ求メサルヘカラスト云フカシ如シ

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ

〔註〕假差押ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ其申請ニ依リ假差押ヲ命スヘキモノナリヤ否ヤチ決定セサルヘカラスト此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ而シテ

口頭辯論ヲ爲サシムルト否ハ裁判所ノ適宜ノ處分ナルカ故ニ若シ口頭辯論ヲ爲スノ必要アルトキハ之ヲ爲サシムルナリ要スルニ申請ヲ調査シテ假差押ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ直チニ其假差押ノ命令ヲ下スコトヲ得ヘキナリ

債權者ニシテ假差押ヲ請求スルノ理由及ヒ其主タル請求ノ權限即チ前條第二號ノ規定ニ依リ之ヲ疏明セスト雖モ假差押ヲ爲シタルカ爲メ債務者ニ損害ヲ生スヘキ爲メ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定メタル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得ルモノトス此ノ如クスレハ若シ其申請力不當ナル場合ニモ債務者ハ損害ヲ被ムルコトナケレハナリ

又假令ヒ請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立シメテ假差押ヲ命スルコトヲ得ルモノトス裁判所ハ十分債務者ヲ保護スルノ方法ヲ取リタルモノナリ又債權者ニ於テ保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法即チ現金額何十圓或ハ有價證券ヲ以テ立タルカ如キコトヲ假差押ノ命令ニ記載スヘシトス

第七百四十二條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲

ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者

ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

〔註〕終局判決トハ第一審ノ裁判ノ終結シタルモノヲ云フ此ノ終局判決ハ假差押ノ申請ニ付テノ裁判ヲ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ之ヲ爲ス其他ノ場合トハ即チ口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲ以テ之ヲ爲スヲ云フ而シテ終局判決ヲ以テ假差押ヲ命シ或ハ之カ却下ヲ言渡シタルトキハ之ニ對シテ控訴ヲ爲シ其判決ニ服セサル者ハ其判決ノ覆審ヲ求ムルコトヲ得ルナリ之ニ反シ決定ヲ以テ之ヲ言渡シタルトキハ債務者ニ於テハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ又債權者ニ於テハ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

第七百四十三條

假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲ニ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

〔註〕債務者ニ於テ假差押ヲ停止シ又ハ之カ取消ヲ求ムルニハ供託ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナレハ裁判所ハ假差押ノ命令ニハ停止又ハ取消ノ爲メニ金額幾何ヲ供託スヘシト記載セサルヘカラス是レ假差押ナル者ハ本執行ニ非スシテ債務者カ執行判決ヲ求ムルマテニ其財産ヲ隱蔽脱漏シ債權者ニ損害ヲ加フルカ如キコトアル場合ヲ想像シテ此ノ危険ヲ防ク爲メニ即チ其執行ヲ保全スル爲メニ假ニ處分スルコトヲ差止メルニアレハ債務者ニ於テ其財産ニ對スル供託ヲ爲シ債權者ヲ安固ナラシメハ必スシモ之カ差押ヲ爲ス

ノ必要ハナケンハナリ

第七百四十四條

債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得

此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ

異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

〔註〕前ニ述ヘタルカ如ク口頭辯論ヲ經スシテ假差押ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ債務者ハ此決定ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス而シテ此異議ハ如何ナル點ニ付テ之ヲ爲スヘキヤト云フニ或ハ假差押ヲ受クルノ理由ナキモノトシテ之カ取消ヲ求ムルト又ハ債權者ノ主張スル債權額ト假差押ニ因リ差押ヲ受ケタル假差押ハ不相當ニ多キ等ナ理由トシテ之カ變更ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ然レトモ此ノ異議ノ申立アリタル爲メ假差押ノ執行ハ之ヲ停止セサルナリ是レ之カ執行ヲ停止スルコトヲ得ルトキハ異議ヲ主張シ假差押ヲ免レテ而シテ速ニ物件ヲ藏匿脱漏シ若クハ其他處分シテ假差押ハ遂ニ之ヲ爲スコトヲ得サルニ至レハナリ且又假差押ハ本執行ノ如ク債務者ニ於テ回復スヘカラサル損害ヲ被ムルコトナケレハナリ

第七百四十五條

異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯

論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ
裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

〔註〕前條ノ規定ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ異議ヲ申立テタル債務者及ヒ假差押ヲシタル債權者ヲ呼出シ口頭辯論ヲ爲サシムルナリ此ノ債務者カ申立ツル異議ハ債權者ノ申立テタル假差押ノ請求ハ不當ナリ債務者ニ於テ之ニ對スル義務ノ辨濟ハ認めメスト云フニ在ラサルヘカラス而シテ裁判所ノ附與シタル假差押ハ單ニ一方ノミノ申立ニ依リ之ヲ命シタルカ故ニ之カ實否ヲ定ムルニハ双方ノ口頭辯論ニ主張スル所ニ徴シ之カ判定ヲ與フルモノトス

此ノ如ク口頭辯論ヲ爲サシメ其結果ニ因リ裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部ヲ認可スル判決ヲ與フルカ又ハ一部ノ認可ヲ爲シ其他ノ部分ヲ變更又ハ取消即チ假差押ヲ變更シテ更ラニ他ノ方法ニ於テ之カ判決ヲ與フル言渡ヲ爲シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツヘキコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得ルモノトナセリ

第七百四十六條

本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期

間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命スヘシ
此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

〔註〕本案ノ未タ繫屬セサルトキトハ前ニ屢々述フルカ如ク假差押ハ執行保全ノ爲メニ假差押ヲ許スニ在レハ其債權ハ訴ヲ提起シ確定ノ判決ヲ得タル上ニ在ラサレハ之ヲ執行スルコトヲ得ヘカラス即チ其訴訟ヲ起シタルトキハ本案カ其裁判所ニ繫屬セラレルナリ而シテ未タ訴訟ヲ起ササル場合ヲ云フ本案カ未タ繫屬スルニ至ラサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ノ期間内ニ訴ヲ起スヘキコトヲ債權者ニ命セサルヘカラス是レ債務者ニ於テ徒ラニ差押ヲ受クルコトトナリ迷惑ヲ蒙レハナリ債權者ニシテ命令アリタルニモ拘ハラズ此期間ヲ徒過シタルトキハ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消スヘキモノト爲セリ其理由ハ前ニ述ヘタル所ノ如シ

第七百四十七條

債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押

ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

〔註〕債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキハ已ニ假差押ノ認可後ト雖モ其主張ヲ以テ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツルヲ得ルモノト爲ス是レ主タル債權カ變更スルトキハ假差押モ亦共ニ變動スルハ當然ナルヘシ又裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル處ノ保證ヲ立テテ假差押ヲ免ルルコトノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモ畢竟假差押ハ執行保全ノ目的ニ出ツル者ナレハ保證ヲ提供スルトキハ假差押ヲ爲スヘキノ必要ナキヲ以テ假差押ノ認可後ト雖モ之ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノトス
此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス可キモノニシテ其管轄ハ本案カ未タ繫屬セサルトキニ於テハ假差押ヲ命シタル裁判所之ヲ管轄シ已ニ本案カ繫屬シタルトキハ本案ヲ裁判スル裁判所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス

第七百四十八條

假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

〔註〕假差押ハ之ヲ執行スルニ至ルマテハ強制執行トハ大ニ異ナル所アリテ要スルニ強制執行ノ財産ヲ處分スルコトヲ得サルモノナレトモ之カ執行ヲ爲ス場合ニ至テハ同シク執

達更ニ之ヲ委任シ之ヲ行フ方法ニ至テモ亦同一ノ方法ヲ以テ爲スモノ少ナカラス故ニ強制執行ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス然レトモ本條以下數條ニ於テ差異ノ生シテ準用スルコトヲ得サルモノハ此限ニ在ラストス

第七百四十九條

假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス
右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

〔註〕債權債務者ノ承繼人ハ其ノ債權債務ヲ承繼スル者ナレハ其ノ承繼アル場合ニハ其承繼人ヲ執行文ニ附記セサルヘカラス然レトモ之ヲ附記スルニハ假差押ニハ假差押命令ヲ發シタル後チニ之ヲ附記スルコトヲ要スルモノトス是レ承繼人ハ命令ヲ發スル以前ニ於テ既ニ定マリタル承繼者ハ此ノ執行命令ニ從ハサルヘカラス
假差押ノ命令ハ其中立人タル債權者ニ言渡シ若クハ其命令ヲ申立人ニ送達シタルトキヨ

リ十四日ヲ徒過シ即チ此ノ命令ノ執行ヲ爲ササルトキハ最早此ノ命令ハ效力ヲ失ヒ此ノ命令ニ依リ執行ヲ爲スコトヲ許サス故ニ債權者ニ於テ仮差押ヲ實行セントスルニ其命令ヲ受ケタルヨリ遅クモ十四日以内ニ其執行ヲ爲ササルヘカラス
此ノ仮差押ハ債務者ニ對シ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ亦之ヲ行フヘキコトト爲ス蓋シ仮差押ハ執行保全ノ爲メニ爲スモノナレハ債務者ニ於テ惡意アルトキハ其執行ヲ爲スコトヲ得サルニ至ル危險アルコトアレハ速ニ差押ヲ爲スノ必要アルコトアレハナリ

第七百五十條

動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲ス可シ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不

相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得

〔註〕差押ハ動産ノ種類ニ依リ其ノ規定即チ手續ヲ異ニスルモノナレハ各其規定ニ從ハサルヘカラス故ニ假差押ノ執行ヲ爲スニ付テモ各差押ノ原則ニ因リテ之ヲ爲スモノトス
債權ノ假差押即チ假差押ヲ受クル債務者ヨリ第三者ニ對スル債權ノ假差押ヲ爲スニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲ス故ニ債權ノ金額ニ拘ハラヌ又動産ノ所在地ニモ關セズ假差押ノ命令ヲ發シタル裁判所之カ管轄ヲ爲スモノナルヲ知ルヘシ
債權ノ假差押ノ方法ハ第三債務者カ假差押ヲ受クル債務者ニ對シ支拂ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ支拂ヲ債務者ニ爲スコトヲ禁スル命令ヲ發シタルノミヲ以テ差押ヲ爲シタルモノト爲ルナリ

假差押ノトキニ金錢ヲ差押タルトキハ直チニ之ヲ供託セサルヘカラス是レ假差押ハ果シテ債權者ニ於テ其ノ債權ノ確實ナルモノナリヤ否ヤ未ダ知レサル場合ナレハナリ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ヲ代價ニ換フルカ如キモ一時之ヲ爲スヘキモノニアラス是レ假差押ハ債權者ノ權利ハ未確定ノモノナレハ此間ニ之カ處分權ヲ與フルハ不當ナレハナリ然レトモ若シ時日ヲ經テ著シク其價額カ減少スルカ又ハ之ヲ貯藏スルニ著シキ費用ヲ要スルトキノ如キハ差押債權者ノ申立ニ依リテ之ヲ競賣シ其賣得金ヲ供託スヘキ

コトヲ執達吏ニ命スルコトヲ得ルモノトス

第七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假執行ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

〔註〕不動産上ノ變更ハ登記ニ因リテ公示スルモノナレハ假差押ノ如キモ已ニ其命令ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其效力ヲ生スルモノニテ之ニ因リテ其不動産ヲ處分スルコトヲ得サルニ至リ即チ其ノ拘束ヲ受クルモノナリ

第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

〔註〕強制管理ヲ爲スヘキ方法及ヒ旨趣ハ前ニ述ヘタル如ク債務者カ所有スル不動産ニ對シ強テ之カ支配ヲ爲シ收益シテ債權ヲ償却セシムル方法ナリ故ニ假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ假差押債權者カ債務者ニ對シテ請求スヘキ金額ニ充ツルマテ不動産ヨリ生スル收益ヲ得テ之ヲ供託スヘキモノトナス

第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處

分ヲ爲ス

〔註〕船舶ノ性質及ヒ之ヲ不動産ノ如ク法律カ取扱フコトニ付テハ前ニ述ヘタル如シ此ノ船舶ニ對シ假差押ヲ爲スニハ其ノ執行ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシメテ此港ヲ去ルコトヲ得サラシムルヲ以テ假差押ヲ爲スノ方法トセリ而シテ船舶ノ異動ニ付テハ之カ登記簿ニ登記セサルヘカラス何トナラハ船舶ハ初メ登記簿ニ登記セサレハ船舶トシテノ行動ヲ爲スコトヲ得サルモノナレハナリ故ニ假差押ノ場合ニモ登記簿ニ之ヲ記入セサレハ假執行ノ命令ノ效力ヲ生セサルモノトス

而シテ船舶ハ常ニ動テ利益ヲ得ルモノニシテ亦之ヲ動カスニ容易ナルコトハ他ノ動産不動産ト異ナル所ニシテ差押ヲ爲シタルトキハ之カ監守ヲ爲ササレハ其安全ヲ保ツ能ハス故ニ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ之カ監守ヲ爲ス又船舶ハ腐蝕等ノ恐レアルカ故ニ之ヲ防ク爲メ必要ナル處分ヲ爲スハ保存上缺クヘカラサルコトナレハ裁判所ハ亦其處分ヲ爲スモノナリ

第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ

取消ヲ命スルコトヲ得

六百四十

右裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時沆告ヲ爲スコトヲ得

〔註〕屢々述フルカ如ク假差押ハ債權者ニ於テ其ノ債權ノ補償ヲ爲スニ付テ安全ニ執行ス

ルコトヲ得ヘキ爲メ豫防方法ニ在レハ假差押命令ヲ受ケタル債務者カ其金額ヲ供託シタルトキハ最早執行保全ヲ得タルヲ以テ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消スヘキモノトス是レ假差押命令ニハ常ニ其債權者ヨリ請求スル金額ニ付キ動産若クハ不動産ニ付キ假差押ヲ命ス但債務者ニ於テハ之ニ相當スル金錢又ハ有價證券ヲ供託スルニ於テハ假差押ヲ免ルルコトヲ得トノ命令ヲ下スヘキカ故ナリ

假差押ニ付テノ費用ハ債權者ニ於テ負擔セサルヘカラサルハ假差押ハ債權者ノ爲メニ其執行ヲ保全セシメントスルニ在ルモノナレハナリ而シテ假差押ノ續行即チ長キ時日假差押ヲ爲スニ付キ特別ノ費用即チ動産不動産ヲ保全スル爲メ要スル費用及ヒ之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者ニ於テ前以テ裁判所ニ納メ置カサルトキハ執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得ルナリ

假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時沆告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス而シテ茲ニ注意スヘキハ所謂取消ノ判決ハ假差押裁判所カ自ラ發シタル假差押命令ヲ取消ス判決ヲ言渡ス場

合アリ故ニ本條ノ如キ假差押命令ノ執行ニ着手シタル後チ執行ヲ取消ス場合ト異ナルヲ以テ之ヲ混同スヘカラサルコト是レナリ

第七百五十五條

係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ

當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

〔註〕假處分トハ一時假ニ處分ヲ爲スコトニテ或ル行爲ヲ命スルカ又ハ或ル行爲ヲ禁スルカ如キヲ云フ而シテ此假處分ヲ行フハ係争物ニ關スル即チ既ニ訴訟ヲ起シタル物件ニ關シテ假處分ヲ爲スヲ云フ如何ナル場合ナルカト云フニ若シ現狀ノ變更ニ依リテ債權者ニ於テ其權利ヲ實行スルコト能ハサル場合ナリ例ヘハ建物ニ付テノ争ニ係ルトキ其訴訟ノ半ニシテ建物ヲ占有スル者ニ於テ之カ取毀ヲ爲スカ如キヲ云フ若シ取毀タレタルトキハ其家屋ノ現狀ハ變シテ一ノ材木トナル此ノ如キニ至ルトキハ其ノ家屋ニ付テハ最早權利ノ實行ヲ爲スコト能ハサルニ至ルカ故ニ其行爲ヲ禁スル命令ヲ得テ之ヲ防クヲ云フ又著シキ困難ヲ生スルノ恐アルトキトハ例ヘハ土地ニ付テ争ヲ生シ訴訟ヲ提起シタルニ其訴訟未タ判決セラレサルニ一方ニ於テ之ニ工事ヲ起サントスルカ如キ場合ヲ云フ此ノ如キ場合ニハ權利ヲ行フニモ著シキ困難ヲ生スルヲ以テ假處分ノ命令ヲ得テ之カ停止ヲ爲スコトヲ得ル方法ナリ

第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

〔註〕本條ハ第七百四十八條ト同一ノ意義ナレハ該條下ノ説明ニ依リ知ルヘシ

第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

〔註〕假處分ノ命令ハ何レノ裁判所ニ於テ管轄スルト云フコトヲ定メスシテ本案ノ管轄裁判所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノト定メタリ故ニ其本案ニ從ヒ或ハ區裁判所ナルコトアリ或ハ地方裁判所ナルコトアルヘシ是レ假處分ノ如キ本案ノ事實ヲ調査スルニアラサレハ之カ命令ヲ下スコト能ハサル事情アルヲ以テナリ

又右裁判ハ急迫ナル場合即チ例ヘハ前例ノ家屋取毀チノ場合ノ如キハ一日モ猶豫スヘカラサル急迫ナル場合ナレハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ルモノト定メタル所以ナリ

第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

〔註〕假處分ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス唯之ヲ定ムルニ債權者ヨリ申立タル目的ヲ達スルニ必要ナル様ニ爲スニ在リ故ニ其處分ノ方法ニ至テハ申請者ノ申立ノ爲メニ拘束セラルルコトナキナリ即チ第二項ニ於テ其處分方法ヲ規定シ此規定中何レノ處分ヲ爲スコトモ裁判所ノ意見ニ任スモノナリ而シテ之ヲ左ノ三條件ニ定メタルナリ

第一 保管人ヲ置クコト

第二 相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁スルコト

第三 被請求者ニ對シテ或ル物ヲ給付ヲ命スルコト

第三項ハ假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ其登記ヲ爲ササルヘカラサルコトヲ規定セリ即チ第七百五十一條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スモノトス

第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

〔註〕假處分ナルモノモ之ヲ取消ス爲スコトヲ得ルモノトス然レトモ假差押ノ如ク其ノ取消スヘキ理由ハ多シトセス只特別ナル事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトス而シテ特別ノ事情トハ一ノ問題ニ屬スルカ故ニ裁判所ノ意見ニ任スルモノトス

第七百六十條

假處分ハ争アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防シ爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

〔註〕假ノ地位トハ一物件ニ付キ何レカ權利者カ義務ナルカ判然セサルトキニ於テ裁判所カ假ニ其ノ權利者若クハ義務者ナリト定ムルヲ云フ然レトモ此ノ如キコトハ其處分カ其物件ニ付著シキ損害ヲ被ルカ若クハ強暴ヲ以テ迫ラントスルトキノ如ク急ナル場合ヲ防ク爲メ又ハ其他正當ナル理由アリテ之ヲ必要トスルトキニ限ルナリ

第七百六十一條

急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得

此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

〔註〕急迫ナル場合即チ前條ノ場合ノ如キハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ命令ヲ下スコトヲ得ルモノトスレトモ只急迫ナル場合ニ限ルモノニシテ至當ノ手續ニアラス故ニ適當ノ方法ヨリ云フトキハ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出スヘキ申立ヲ假處分請求者ニ爲サシメサルヘカラス然レトモ急迫ナル場合ニハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ヲ爲シタルコトノ正當ナルヤ否ヤニ付キ口頭辯論ノ爲メ本案ノ訴訟ヲ管轄スヘキ裁判所ニ其期間ヲ定メテ口頭辯論ヲ請求スヘシトノコトヲ命シタル上ニテ假處分ヲ命スルコトヲ得ルモノトス

區裁判所ハ此ノ如ク期間ヲ定メテ申立ヲ爲サシムルモ其期間ヲ徒ラニ經過シタルトキハ區裁判所ハ相手人即チ被處分者ノ申立ニ因リ假處分ノ命令ヲ取消ササルヘカラス

第七百六十二條

本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

〔註〕本章ノ規定ニ於テ本案ノ管轄裁判所ト云フハ本案ノ訴訟ヲ管轄スヘキ第一審ノ裁判

所トナス然レトモ本案カ第二審若クハ第三審ニ繫屬スル場合ニ於テ假差押假處分ヲ求ムルコト之レ無シト云フ可カラス故ニ但書ヲ設ケテ本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニハ控訴裁判所ニ於テ之ヲ管轄スルモノトス

第七百六十三條

急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限リ裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

〔註〕假差押又ハ假處分ヲ命スヘキ事件急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトハ前ニ其規定ヲ見ル所ナリ此ノ場合ニ限リ裁判長ノミニテ裁判ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第七編 公示催告手續

〔註〕公示催告トハ裁判所ノ揭示場又ハ官報等ニ公告シテ權利ヲ失ハシメサル方法ヲ云フ即チ債務者カ失踪若クハ不在ナル場合ニ於テ權利ノ届出若クハ請求ノ届出ヲ爲ササルトキハ權利ヲ失フニ至ルカ如キ場合ニ之ヲナスモノナリ

第七百六十四條

請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

〔註〕請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メトハ或ル財産上ノ配當ヲ爲スニ付キ多クノ債權者ニ其權利ノ申出ヲナサシムルヲ云フ即チ家資分散ノ場合ニ於テ其分散ノ財團ニ付キ之カ處分ヲ終了スル爲メ其財團ニ付權利ヲ主張シ得ル者ヲシテ届出ヲナサシムルニ在リ此公示催告ニハ必ス期間ヲ定メテ催告スルモノナレハ其時期ヲ徒過スルニ於テハ權利ヲ失フコトアルヘキヲ豫告スルヲ云フ
此公示催告手續ハ區裁判所ニ於テ之カ管轄ヲ爲スヘキモノトス即チ金額ノ多少ト目的物ノ如何ニ係ラサルナリ

第七百六十五條

公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

申立ヲ許スコキトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲スコク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 申立人ノ表示

第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告

第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示
第四 公示催告期日ノ指定

〔註〕公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス而シテ此ノ申立ニ對スル裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス是レ其ノ必要アラサルヲ以テナリ
申立ヲ許スヘキトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲スヘク其公示催告ニ掲クヘキ諸件ハ即チ左ノ如シ

第一 申立人ノ表示 申立人何某ト記載スルヲ云フ

第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツヘキコトノ催告 此ノ項ハ催告ヲ爲スヘキ主要ノ點ニシテ此期日ヲ徒過スルトキハ權利ヲ失フニ至レハナリ本項ノ期日カ記載シアラサレハ第三號ノ場合生スルコトナキナリ

第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生スヘキ失權ノ表示

第四 公示催告期日ノ指定 公示催告期日即チ其届出ハ何月何日ヲ限リ之ヲ爲スヘキモノトス

第七百六十六條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ別

段ノ規定ヲ設ケサルトキハ第五百五十七條第三項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

〔註〕公示催告ヲ爲ス方法ハ前條ニ規定スル各要件ヲ具シ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ其他官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲シ尙ホ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ第五百十七條第三項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スモノトス

第七百六十七條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクトモ二个月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

〔註〕公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ヨリ公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクトモ二个月ノ猶豫ヲ存セサルヘカラス此ノ如ク期間ヲ長クシタルハ其申立ヲ爲ササルトキハ債權者ハ權利ヲ失フニ至ルヲ以テナリ若シ此ノ期間ヲ短縮シタルトキハ請求者ニ於テ之カ届出ヲ爲サントスルモ其手續ヲ爲スノ遅アラスシテ爲メニ權利ヲ失フノ遺憾アラシムルヲ以テ公示催告ヲ設ケタル旨趣ヲ空シクスルカ故ナリ

第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト

看做ス

〔註〕本條ハ期間中ニ届出テサル債權者ヲ保護スルニ在ルナリ即チ公示催告ニハ一定ノ時間ヲ定メテ請求又ハ權利ノ届出ヲ爲スニ其期間ノ終リタル後ニ於テ届出ヲ爲シタル者ニモ其權利ヲ失ハシメサル規定ニシテ其届出ノ期間ヲ經過スルモ其届出カ除權判決即チ權利ヲ失ハシムル判決ヲ爲ス以前ニ在ルトキハ適當ナル時間ニ其届出ヲ爲シタルモノト看做シ届出ノ效力ヲ有セシムルナリ是レ公示催告ニ於テ定ムル所ノ期間ハ除權判決ヲ爲スヘキ期日ニ達スヘキ時日ヲ定メタルモノニシテ除權判決ハ此ノ時日ニ達シタル後チ初メテ爲スコトヲ得ヘキモノニテ此ノ判決ヲ爲スマテハ未タ以テ失權者ト爲スコトヲ得ストスルハ至當ノコトナリ

第七百六十九條

除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲スコキ旨ヲ命スルコトヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

〔註〕除權判決ヲ爲スニハ申立ニ因リテ之ヲ爲スモノトシ職權ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノニアラサレハ其申立ナキトキハ之ヲ爲スコトヲ得サルヘシ而シテ判決ヲ爲ス前ニハ詳細ナル探知ヲ爲スコキ旨ヲ命スルコトヲ得ルモノトス其理由ハ債權ノ申出ヲ爲ス者ニシテ期

間内ニ申出ヲ爲スチ怠リ其權利ヲ失ハシムルハ法律ノ好マサル所ナレハ除權判決ヲ爲スマテニ十分ノ事實ノ調査ヲ申立人ニ命スルニ在ルナリ

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定ハ即チ除權者ト爲ササル決定ニシテ除權判決ノ請求ハ其理由ナシトシテ却下スルモノナリ除權判決ニ付シタル制限トハ請求者ノ請求ニ或ル制限ヲ附シテ其請求ヲ採用スルヲ云フ又留保トハ除權ノ時期ヲ以テ其判決ヲ確定セシメサルヲ云フ語ヲ換ヘテ言ハハ除權判決ヲ與ヘタルニ尙ホ債權ノ申出ヲ有效ト爲スチ云フ此ノ如キ決定ハ申立人ニ於テ不利益ナルカ故ニ申立人ハ即時抗告ヲ爲スコトヲセシメタルナリ

第七百七十條

申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ

爭フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除

權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ

〔註〕申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ爭フコトノ届出アリタルトキハ除權判決申立人ニ於テ權利ヲ主張シ除權判決ノ申立ヲ爲シタル時ニ於テ其主張スル權利ニ付キ爭ヒアリト爲シ其爭ヒノ届出ヲ爲ス者アルトキナ云フ此届出アリタルトキハ除權判決申立人ノ主張スル權利ハ正當ナルヤ否ヤ其爭ヒニ對スル裁判ノ決定スルマテハ裁判所ハ專

情ニ從ヒ公示催告手續ヲ中止スルコトヲ得ルナリ其理由ハ之ヲ中止セサレハ其申立人ニ對シ權利ヲ爭ハントスルモノハ除權判決アリタル爲メニ其權利ヲ失フノミナラス若シ此ノ權利ノ定マルトキハ除權判決ヲ爲スノ必要ナキニ至ルヘキコトアレハナリ又其ノ中止ヲ爲ササルモ除權判決ヲ以テ其届出タル權利ノ留保ヲ命スルコトヲ得ルナリ即チ其權利ヲ以テ除權判決ヲ以テ失權者ト爲サス尙ホ其權利ノ存在スルモノト看做スナリ

第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六個月ノ期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ許ス

〔註〕除權判決ノ申立ヲ爲シタル者カ事情ノ爲メニ公示催告期日ニ出頭セサルコトナシト云フヘカラス此ノ場合ニ於テハ申立人ハ其件ニ付テハ公示催告ヲ爲スコトヲ得サルモノト爲サス尙ホ更ニ其申立ツル處ニ因リテ新期日ヲ定ムルコトト爲セリ然レトモ此申立ハ制限ヲ加ヘテ公示催告期日ヨリ六個月ノ期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス是レ此ノ制限ヲ加ヘサレハ關係者ニ困難ヲ生セシムルカ故ナリ乃チ若シ此ノ期間内ニ公示催告ヲ申立テサル者ハ最早更ニ期日ノ決定ヲ求ムルコトヲ得サルナリ

第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

〔註〕已ニ公示催告ノ手續ニ着手シタル後ニ其手續カ期中ニ完結セサルトキ之ヲ完結スル爲メ更ニ新期日ヲ定ムル場合ニ於テハ公示催告ノ手續ハ現ニ行ハレツツアルモノナルカ故ニ別段其期日ニ就テ公告ヲ爲スニ及ハサルモノトス

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

〔註〕除權ノ重要ナル旨趣トハ除權判決カ債務者何某ノ財産上何某ノ債權ノミ請求又ハ債權利ヲ有シ其ノ他ノ者ハ債權利ヲ有セストノ決定ヲ與ヘタル場合ニ其判決中最モ重要ナル債權利ヲ有スル者ハ何某ニシテ其他ノ者ハ請求又ハ債權利ヲ除カレタリトノコトヲ云フ此ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス
除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ爲ス場合ニ非サルトキ
第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタ

方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラヌ判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ願ミサルトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

〔註〕除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス即チ判決ハ確定シテ直チニ之ヲ實行スルコトヲ得ルナリ然レトモ其判決ノ手續ニ於テ過誤ニ出ツルコトアラハ之カ救濟ヲ爲ササレハ關係人ニ不利益ヲ蒙ラスカ故ニ不服トシテ申立ツルコトヲ得セシメ救濟法ヲ與ヘタルモノナリ而シテ其不服ハ申立人ニ對シ訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マ

ル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラザリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル
除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

〔註〕不服申立ノ訴ハ一个月内トシ此ノ期間ハ不變期間ニシテ一日タリトモ徒過スルトキハ之カ訴ヲ起スコトヲ得サルナリ而シテ此期間ノ起算點ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マルモノトス然レトモ前條第四號ノ如キ判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル場合又ハ前條第六號ニ掲ケル第四百六十九條ニ定メタル原狀回復ノ訴ヲ爲スニ五箇ノ原由ヲ適用スル場合ノ如キ若シ其理由ヲ起訴者ニ於テ知ラサル場合ニ於テハ訴ヲ起スヘキ期間ハ此ノ事實ヲ知リタル日ヲ以テ期間ノ起算日ト爲ササルヘカラス

此ノ如ク事實ノ知レタル日ヲ以テ起算點ト爲スト雖モ何時迄モ際限ナク除權判決ニ因リテ決定セラレタル事實ハ久シク訴ヲ起スコトヲ得ルモノトセハ相手人ニ於テ大ニ迷惑ヲ蒙ルカ故ニ除權判決ノ言渡ノ日ヨリ後チ五ヶ年ヲ經過スルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得

第七百七十六條

裁判所ハ第二百二十條ノ條件ノ存セサルトキト雖モ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

〔註〕第二百二十條ハ準備書面及ヒ口頭辯論ニ關スル規定中數箇ノ訴訟ヲ併合スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ而シテ裁判所ハ彼ノ第二百二十條ノ條件ノ存セサルトキト雖モ數箇ノ公示催告ニ付テハ其併合ヲ命スルコトヲ得ルモノトス詳言セハ第二百二十條ノ規定ハ辯論及ヒ裁判ヲ併合スヘキヲ命スルコトヲ得ルハ訴訟ノ自的物タル請求ヲ元來一箇ノ訴ニ於テ主張シ得ヘキトキニ限ルトスレトモ本條ハ此條件ノ如何ニ拘ハラズ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得ルモノトス

第七百七十七條

盜取セラレ又ハ紛失者ノハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲ス可ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限りハ之ヲ適用ス

〔註〕盜取セラレ又ハ紛失者ノハ滅失シタル手形ヲ無効トナスニハ之ヲ公示シテ其手形ノ

權利者ト爲ル者ナカラシメントスルニ在リ而シテ其方法ハ公示催告ノ手續ニ因リテ之ヲ爲スヘキナリ是レ手形ナル者ハ之ヲ所持スル者ニ於テ其ノ權利ハ行ハルモノナレハ盜取シタル者等カ其手形ニ因リテ權利ヲ行ハントナ防カサルヘカラス然レトモ此等ノ公示催告手續ハ商法上ノ權利ニ付テハ法律上特別ノ規定ヲ要スルモノアルカ故ニ本條以下數條ノ規定ニ從ヒ公示催告手續ヲ爲スモノトス

然レトモ若シ商法ニ於テ公示催告ノ手續ヲ證書等ニ關シ特別ニ規定シタルモノアルトキハ之ニ從ハサルヘカラスト雖モ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中特別ニ規定ノ設ケナキ限りハ此ノ規定ヲ適用スルモノトス

第七百七十八條

無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘシ且畧式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ
此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立チ爲ス權アリ

〔註〕本條ノ規定ハ商法上ノ證券ニ關スル公示催告手續ナリ無記名證券トハ債權者ノ氏名ヲ記セス證券ヲ所持スル者ヲ以テ債權者ト爲スヘキ證券ニシテ通貨ト同一ノモノナリ無記名公債證券ノ如キ是レナリ又裏書ヲ以テ移轉シ得ヘキ證券トハ券面ノ債權者ノ外尙其

債權者若シハ債權者ノ指定スル人ニ支拂フヘキコトヲ記載シ且略式裏書ノ方法即チ氏名ノミヲ記入シテ何人ニモ此ノ手形ニ記載シタル權利ヲ行フコトヲ得ヘキモノヲ云フ此ノ種ノ證書ニ付テ公示催告ヲ爲スニハ最終ノ所持人ニ於テ公示催告手續ヲ申立ツル權アルモノトス是レ常ニ輾轉シテ已マサル證券ナレハ最終ノ所持人ニアラサレハ此ノ權利ナキコトハ視易キ道理ナルヘシ

此他ノ證書トハ商法上ニ規定スル所ノ證書ヲ云フモノナリ而シテ此他ノ證書ニ付テ公示催告手續ヲ爲スニハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者ニ於テ此申立ヲ爲スノ權アルモノトス

第七百七十九條

公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判書記ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

〔註〕商法上發行スル證書ニハ其支拂地即チ履行地ヲ記載スルモノ多シ此ノ證書ニ付テノ

公示催告手續ヲ管轄スヘキ裁判所ハ此ノ證書ニ記載シタル履行地ノ裁判所ニ於テ之ヲ管轄スルモノトス然ルニ其ノ證書ニ履行地ノ表示ナキモノハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地即チ住居地ノ裁判所之ヲ管轄スルモノトス若シ其發行人ニシテ普通裁判籍ヲ有セサルトキハ其管轄ハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有シタル地ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ之ヲ管轄ト爲ス

證書ヲ發行スル原因タル請求即チ證券發行ノ原因不動産上ニ關係ヲ有シ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬スルモノトス

第七百八十條

申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

- 第一 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト
- 第二 證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ説明スルコト

〔註〕公示催告ノ申立人カ申立ヲ爲スニハ本條ニ規定シタル憑據ヲ以テ其手續ヲ爲スモノトス而シテ其手續ハ左ノ如シ

- 第一 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要

ナル諸件ヲ開示スルコト

六百六十

證書ノ謄本ヲ差出スコトヲ得ヘキトキハ他ノ憑據ヲ差出スノ必要ハナシト雖モ若シ謄本ニシテ之無キトキハ證書中重要ナル旨起即チ金額及ヒ支拂期限支拂地裏書ノ氏名等其他證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示セサルヘカラス

第二 證書ノ盜難紛失滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ疏明スルコト

證書カ如何ナル場合何レノ場所ニ於テ盜取セラレ若クハ紛失シ如何ナル事實ニ因リ滅失シタリト云フコト其他公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ明細ニ陳辯セサルヘカラストセリ

第七百八十一條

公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ開示ス可シ

〔註〕公示催告中ニハ證書所持人ニ向テ其權利ヲ公示催告期日マテニ其權利ヲ裁判所ニ届出ヲ爲シ且其證書ヲ提出スヘキコトヲ掲ケ又其ノ期日マテニ届出テス證書ヲ提出セサルトキハ除權判決以後ニ差出スモ其ノ證書ハ無効ナル宣言ヲ爲スヘキ旨ヲモ戒示スヘキモ

ノトス故ニ證書所持人ニシテ此ノ戒示ニ遵ハサルトキハ當然證書ノ權利ヲ失ヒ已ニ奈何トモ爲スコトヲ得サルナリ

第七百八十二條

公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス

公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ揭示ス可シ

第七百八十三條

公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六個月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百八十四條

除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言ス可シ

除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキ

◎第七編公示催告手續

六百六十一

ハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ
〔註〕除權判決ハ申立人ニ於テ其證書ヲ盜取セラレ若クハ紛失滅失シタルコトヲ理由トシ
テ其證書ノ無効ヲ宣言センコトヲ目的トスルモノナレハ十分ニ調査ノ手續ヲ盡シ終ニ其
證書ハ無効ニ屬スヘキコトヲ宣告スルナリ

除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告スヘキモノトス是レ除權判決ハ
正當ナル手續ヲ履ミスノ如キ理由アルヲ以テ除權判決ヲ與ヘタリトノ公告ヲ爲スモノト
ス

除權判決ニ對シ其判決ヲ不服トシテ訴ヲ起シタルニ因リ遂ニ除權判決ヲ取消シタルトキ
ハ其ノ取消シタルコトヲモ判決確定ノ後チ官報又ハ公報ヲ以テ之カ公告ヲ爲スヘキモノ
トス是レ一旦宣告ヲ以テ證書ヲ無効トシテ之カ公告ヲ爲シタルカ故今復タ其證書ハ更ニ
有效ノモノトナリタレハ先キノ公告ハ取消サレルヲ以テ又其有效トナリタル公告ハ之ヲ
爲ササルヘカラサルナリ

第七百八十五條 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ
因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張ス
ルコトヲ得

〔註〕除權判決ハ證書ヲ盜取セラレ又ハ紛失滅失シタルコトヲ理由トシテ其證書上ノ權利

ヲ無効トスルニ在ルカ故ニ申立人ニ於テハ仮令ヒ證書ハ之無シト雖モ權利者タルコトヲ
疏明スルトキハ權利者タルノ判決ヲ與フルナリ故ニ除權判決アリタルトキハ其申立人ハ
證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ其證書ニ因リ既ニ得タル所ノ權利ヲ主張スルコト
ヲ得ルモノナリ

第八編 仲裁手續

第七百八十六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ争ノ判斷ヲ爲
サシムル合意ハ當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル
場合ニ限り其效力ヲ有ス

〔註〕仲裁ハ双方ノ争ヒニ係ル事件ノ判斷ヲ爲スモノニシテ其判斷ニ因リテ權利ヲ定ムル
ヲ云ナリ當事者間ニ於テ一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ争ヒノ判斷ヲ爲サシムヘキコトヲ
合意即チ双方ノ意思カ一致シタルトキハ此合意ハ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限りテ其效
力ヲ有スルモノトス然ラハ則チ仲裁ハ一ノ和解ト見做スモノナリ而シテ和解ハ民法ノ規
定ニ依ルトキハ其ノ能力ヲ有スル者ニアラサレハ合意ノ效力ナシトス故ニ和解ヲ爲スコ
トヲ得サル幼者又ハ禁治産者ノ如キ或ハ管理人カ管理スヘキ財團ニ付キ此ノ如キ合意ヲ
爲シタリトテ無効ナレハ仲裁ノ合意モ亦無効ナルヘキナリ

第七百八十七條 將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關

係及ヒ其關係ヨリ生スル争ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セ

〔註〕將來即チ今ヨリ以後ノ争ニ關スル仲裁契約ヲ爲スニハ一定ノ權利關係即チ何々ノ事件ト既ニ定マリタル事實ヲ目的トシテ双方ニ於テ此ノ權利關係ニ付キ又ハ此ノ權利關係ヨリ生スル争ニツキ仲裁契約ヲ爲シタルカ如キハ其效力ヲ有スルナリ然レトモ其仲裁契約ノ目的タルヤ茫漠トシテ一定セサル權利關係ニ付テハ仲裁人ノ判斷ヲ以テ終局スヘシト云フカ如キ合意ハ其效力ヲ有セサルナリ是レ將來ノ事ハ凡テ想像的ニシテ合意ノ際ニハ如何ナルモノナルカヲ見ル能ハサレハ此ノ如キ合意ハ法律上無効ト爲シタル所以ナリ

第七百八十八條

仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

〔註〕仲裁人ノ判斷ヲ以テ争ヒノ結局ヲ爲サシムヘキコトヲ合意スルニハ仲裁人ノ選定ニ關スルコトヲモ定ムヘキモノナルニ唯タ權利關係ヲ仲裁人ニ判斷ヲ爲サシムヘシトノミ合意シ仲裁人選定ノ事ニ及ハサルトキニ於テハ之カ爲メニ此ノ合意ハ其效力ヲ生セサルニ至ル故ニ法律ハ之カ選定法ヲ定メテ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定スヘシトノ規定ヲ設ケタルナリ

第七百八十九條

當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有

スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ
右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

〔註〕當事者双方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先キニ手續ヲ一方ノ者ハ書面ヲ以テ相手方ニ向ヒ其何人ヲ選定シタリトノコトヲ指示セサルヘカラス之ト同時ニ七日ノ期間内ニ相手方ニ於テモ此手續ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘキモノト爲ス
此ノ催告ヲ爲シタルニ相手方ニ於テ其期間ニ仲裁人ヲ選定セサルトキハ其期間ヲ徒過シタルモノトシ先キニ手續ヲ爲セシ一方ノ者ノ申立ニ因リ管轄裁判所ハ仲裁人ノ選定ヲ爲スヘキモノトス是レ仲裁人ヲ選定セサル者ハ故意ニ事ノ終局ヲ遲延セシメントスル者ナレハ相手方ニ於テ爲メニ損害ヲ蒙ルコトアレハナリ

第七百九十條

當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラル

〔註〕先キニ仲裁人選定ノ手續ヲ爲シテ之ヲ相手方ニ通知シタル後ハ最早相手方ニ對シ其選定ニ羈束セラル即チ一旦之ヲ指示シタル上ハ隨意ニ之カ變更ヲ爲スコトヲ得ス是レ相

手方ニ於テ定メタル仲裁人ノ指示アリタルトキハ他ノ一方ニ於テモ之ニ相當スル者ヲ選
定セサルヘカラスサルヲ以テ一旦指示ノ後ニ至リ隨意ニ之カ變更ヲ爲ストキハ相手方ニ於
テモ亦選定ヲ變更セサルヘカラスサルニ至ルコトアレハナリ

第七百九十一條

仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人
死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其ノ職務ノ引受若
クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ
相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ
此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル
者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

〔註〕仲裁人ハ一旦定メタル上ハ之カ變更ナシト謂フヘカラス其仲裁人ニシテ死亡スルカ
又ハ其他ノ理由即チ旅行等ニ依リ欠缺シタルトキ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタ
ルトキハ之カ選定ヲ爲シタル相手方ハ更ニ仲裁人ヲ選定セサルヘカラス而シテ之ヲ選定
スルニハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ選定セサルヘカラス若シ此期間ヲ徒過シタ
ルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ之ヲ選定スヘキモノトス

第七百九十二條

當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ
理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責務ノ
履行ヲ不當ニ遅延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得
無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌
避スルコトヲ得

〔註〕仲裁人ハ争ノ判斷ヲナサシメントスルニ在ルカ故ニ最モ公平ニシテ偏頗ノ處置ヲ爲
スヘカラス故ニ若シ不公平ノ處置ヲ爲スト思量スルトキハ當事者ハ裁判上判事ヲ忌避ス
ル權アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得ルモノトス是レ仲裁人
ノ職務ハ判事ト同シク當事者ノ争ヒニ係ル事實ニ付キ公平無私ノ判斷ヲ與フヘキモノナ
レハナリ

仲裁人ヲ選定スルハ仲裁契約ヲ以テ選定セサルコトアリ此ノ仲裁契約ヲ以テ選定シタル
ニ非サル仲裁人カ其責務ノ履行ヲ謂レナク遅延スルトキハ亦之ヲ理由トシテ忌避スルコ
トヲ得ルナリ是レ徒ラニ遅延シタルトキハ仲裁人ヲ選定シタル目的ニ反スルヲ以テナリ
此他仲裁人カ無能力者聾者啞者及ヒ公權剝奪又ハ公權停止中ノ者ニ係ルトキハ忌避スル
コトヲ得ルモノトス是レ一般ノ信用ヲ有セサル者ナレハナリ

第七百九十三條

仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ
爲メ豫定ヲ爲ササリシトキハ其效力ヲ失フ

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不當ニ遅延シタルトキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

第七百九十四條

仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限リハ争ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

〔註〕仲裁契約ハ公平無私ノ意見ヲ以テ當事者間ニ於テ争ヒニ係ル事實ヲ調査シテ其判斷ヲ爲スモノナルカ故ニ仲裁判斷ヲ爲ス前ニ於テ當事者ヲ審訊シ之ニ依テ理非當否ヲ判斷セサレハ完全ノ判斷ヲ爲スコト能ハサルヘシ故ニ必要トスル限リハ其争ヒノ原因ニ付キ事件ノ關係ヲ探知セサルヘカラス

仲裁ヲ爲スノ手續ハ當事者ニ於テ豫メ合意ヲ以テ之ヲ定ムルモノナレトモ若シ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第七百九十五條

仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ

〔註〕仲裁人ノ面前ニ任意ニ出頭スル證人及鑑定人トハ別ニ召喚セスシテ證人等自身ヨリ出頭スル者ヲ云フ此等ノ者ニ對シテハ證人トシ鑑定人トシテ審訊スルコトヲ得ルモノトス是レ仲裁人ハ争ニ係ル事實ニ付テ判斷ヲ爲スニ必要ナリトスル場合ニハ此等ノ權利ヲ與ヘサレハ調査ノ手續ヲ盡スコト能ハサルナリ

然レトモ仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權利ナシ其理由ハ仲裁判斷ハ當事者ノ合意ニ因リテ私上ニ爲スモノナルカ故ニ公務トシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得サルナリ

第七百九十六條

仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲ス可シ但其申立ヲ相當ト認メタルキニ限ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述フルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ

〔註〕仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノトハ公務ノ力ヲ藉ラサレハ爲スコト能ハサルヲ云フ例ハ證人若クハ鑑定人ノ審問ヲ爲スニ必要ナル調査上ノ事實アルカ如キ場合ニ其證人鑑定人ハ仲裁人ニ於テ召喚スルコト能ハサルカ如キヲ云フ此ノ場合ニ仲裁人ハ如何トモスル能ハサレハ當事者ハ裁判所ニ向テ其調査ニ付テノ申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス而シテ裁判所ニ於テ管轄裁判所ニ於テハ其申立カ相當ナリト認メタルトキニ限り之カ調査ヲ爲スヘキモノトス

裁判所ニ於テ其申立ヲ理由アリトシ證人又ハ鑑定人ヲ命シタル場合ニ於テハ其證人鑑定人タル者カ其ノ證言ヲ爲スコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テハ必要ナル裁判ヲモ爲スヘキ權利アリトス

第七百九十七條

仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許スコカラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判斷ス可キ争ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

〔註〕仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許スヘカラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判斷スヘキ争ヒニ關係ナキコト又ハ仲裁人カ其

職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁人ハ之カ爲メニ其仲裁手續ヲ妨ケラルルコトナク之ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得ルモノトス是レ仲裁判斷ヲ遲延ナラシメンカ爲メ之ヲ妨ケントスル者アリテ之ヲ理由トシテ其申立ヲ爲ストキニ於テモ中止スルコトナクシテ續行スルコトヲ得ルモノトス

第七百九十八條

數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲スコキトキハ過半数ヲ以テ其判斷ヲ爲スコシ但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

〔註〕仲裁人數名アリテ此仲裁人カ其意見ヲ異ニスルトキハ如何ニシテ其判斷ヲ爲スヘキヤノ疑問ヲ生ス本條ハ此場合ヲ規定シテ一般ノ採決法ニ依リ過半数ヲ以テ其判斷ヲ爲スヘシトス然レトモ其仲裁契約ニ於テ過半数ニ依ラスシテ比較的多數ノ意見ヲ以テ判斷ヲ爲スヘシトノ別段ノ定アルトキハ其方法ニ從ヒ必スシモ普通法ノ過半数ヲ用ヒサルモ妨ケナシトシタルナリ

第七百九十九條

仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印ス可シ

仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預

ケ置ク可シ

〔註〕仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人ノ署名捺印ヲ爲スヘシ是レ他日ノ證據トスルニ必要ナルコトアルヲ以テナリ又其仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達スルハ其判斷ノ結果ヲ當事者ニ知ラシムル爲メナリ而シテ其原本ト送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置クヘシトス是レ亦他日必要ヲ生シタル場合ノ便益ニ供スルニ在ルナリ

第八百條 仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス

〔註〕當事者間ニ於テハ仲裁判斷ハ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力アルモノトス故ニ判決ノ效力ヲ以テ執行ヲ爲スコトヲ得ルカ如キ又此判斷ニ對シテハ一事不再理ノ原則ニ基キ同一ノ事由ヲ以テ争ヒテ起スコトヲ得サルカ如キハ仲裁判斷ニモ其效力ヲ有スルモノトス

第八百一條 仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

- 第一 仲裁手續ヲ許ス可カラザリシトキ
- 第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲スコキ旨ヲ當事

者ニ言渡シタルトキ

第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ

第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セザリシトキ

第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セザリシトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

〔註〕仲裁判斷ノ效力ハ前條ノ如ク規定シタルトモ決シテ取消スコトヲ得サルモノト云フヘカラス即チ本條ニ掲ケタル理由ノアルトキハ之カ取消ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ

本條第一號ヨリ第六號ニ至ル事項ハ別ニ説明ヲ要スヘキナシ

末項ハ本條第四及第五號ノ理由タル當事者間ニ於テ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ此ノ理由ニ因リテハ之カ取消ヲ爲スコトヲ得ストスルナリ

第八百二條

仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ言渡シタルキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

〔註〕仲裁人ノ爲シタル仲裁判斷ニ基キテモ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ之ヲ爲サシニハ執行判決ニ於テ之ヲ許スヘシト決定シタルトキニ限リ之ヲ爲サシムルコトトス故ニ仲裁判斷ヲ受ケタル當事者ニ於テ強制執行ヲ爲サントスルトキハ必ス執行判決ヲ求メサルヘカラス

然レトモ右執行判決ヲ與フルハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノアルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ストス是レ其ノ理由ハ即チ仲裁判斷ノ不完全ニシテ取消サルモノナレハナリ

第八百三條

執行判決ヲ爲シタル後ハ、裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疏明シタルトキニ限ル

〔註〕執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得サルモノナリ然レトモ

之ヲ取消ヲ爲サントスルトキハ第八百一條第六號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ而シテ前條第六號ニ規定シタル理由ハ執行判決前ニ於テ之ヲ知ルコトヲ得サルコトアレハ若シ執行判決前ニ於テ之ヲ知ラサリシコト即チ當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續即チ執行判決前ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スルコト能ハサリシコトヲ疏明シタルトキニ限リ執行判決後ト雖モ取消ノ訴ヲ爲スコトヲ得ルモノト定メタリ

第八百四條

仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス

仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ニ取消ヲモ亦言渡可シ

〔註〕仲裁判斷取消ノ訴ヲ前條規定即チ第八百一條第六號ノ理由ニ基キ提起セントスルニハ一ヶ月ノ不變期間内ニ之ヲ爲スヘキモノトス而シテ此ノ期間ハ當事者ニ於テ其理由ノ存在スルコトヲ知リタル日ヨリ始マルモノトス然レトモ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日カ執行確定前ナルトキハ其確定ノ時ヲ以テ起算シテ其ヨリ一ヶ月ノ期間トナス但シ執

行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ滿五個年ヲ經過シタル後ハ此訴ヲ起スコトヲ得サルモノトス

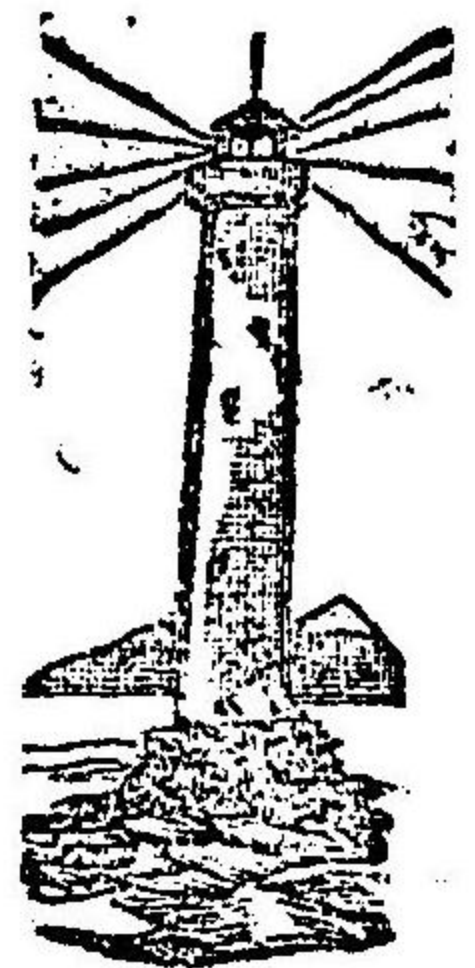
仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ言渡スモノトス是レ執行判決ハ仲裁判斷ニ依リテ爲スモノナレハ其根元タル仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ヲ取消スハ當然ナリト謂フヘシ

第八百五條

仲裁人ヲ選定シ若シハ忌避スルコトト仲裁契約ノ消滅スルコトト仲裁手續ヲ許ス可カラサルコトト仲裁判斷ヲ取消スコトト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

〔註〕仲裁契約ニ依ル訴訟ニ付キ管轄裁判所ヲ定ムルハ當事者ノ合意ヲ以テ豫メ之ヲ定ムルコトヲ得ルカ故ニ仲裁契約ニ於テ之ヲ契約シタルトキハ此ノ仲裁判斷ニ關係セル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄スルモノトス

判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄スルモノトス若シ仲裁判斷ニ於テ其指定ナキトキハ其仲裁判斷ニ係ル請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ其爭ヒノ管轄ヲ有スヘキ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ之ヲ管轄スルモノトス
仲裁判斷ヲ爲ス當事者數人ナルカ又ハ其他ノ理由ニ因リ此ノ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係ヲ爲サシメタル裁判所ニ於テ之カ管轄ヲ爲スヘキモノト爲セリ



附錄

●民事訴訟法施行條例

朕民事訴訟法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ
明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 民事訴訟法實施前ニ提起シタル訴訟ニ付テノ爾後ノ
訴訟手續ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス

第二條 民事訴訟法實施前ニ闕席ノ儘言渡シタル裁判ニ對シ
テハ民事訴訟法ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

故障ノ期間ハ新法ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ
舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

第三條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ニ對スル控訴上
告期限ハ新法ノ控訴上告期間ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス
但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ
從フ

第四條 民事訴訟法實施前ニ確定シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リ再審ヲ求ムル訴ヲ爲スコトヲ得但民事訴訟法實施前ニ再審ノ條件生シタルトキハ其條件ノ生シタル日ヨリ再審ノ期間ヲ起算ス

第五條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ強制執行ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス但既ニ身代限ノ揭示ヲ爲シ又ハ公賣ニ著手シシタル事件ハ其手續ノ終了マテハ舊法ニ從フ

第六條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ執行命令ヲ得サル場合ニ於テ民事訴訟法第四百九十九條ノ規定ニ從ヒ證明書ヲ要スル者ハ其訴訟記録ノ存在スル裁判所ニ之ヲ求ムルコトヲ得

第七條 民事訴訟法實施前既ニ勸解ヲ出願シ未タ完結ニ至ラサル事件ハ民事訴訟法第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所繼續シテ之ヲ完結スルコトヲ得

第八條 民事訴訟法ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ屬ス

第九條 民事訴訟法ニ於テ親族ト稱スル者ハ當分ノ内刑法ノ親屬例ニ依ル

第十條 婚姻離婚及養子ノ縁組離縁ニ關スル訴ニ付テハ特別ノ慣例アルモノハ當分ノ内其慣例ニ從フ

第十一條 明治八年第六號布告ハ當分ノ内其效力ヲ有スルモノトス

第十二條 明治十年第十九號布告控訴上告手續第十六條中大審院トアルヲ上告裁判所ト改メ該條ハ當分ノ内其效力ヲ有スルモノトス

●民事訴訟費用法

朕民事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ以下數條ノ規

◎民事訴訟費用法

定ニ從ヒ之ヲ算定ス

第二條 訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金二錢五厘トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ
圖面ハ一葉ニ付金十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第三條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金五十錢トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

第四條 民事訴訟用印紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ其代價ニ依ル

第五條 執達吏ノ手数料及ヒ立替金ハ執達吏手数料規則ノ規定ニ從フ

第六條 郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル

第七條 官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各其定價ニ依ル

第八條 民事訴訟法第二百二十七條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添

命シタルトキハ其報酬ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第九條 當事者ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ二十五錢トス

第十條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ給セズ

第十一條 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢乃至五圓ノ範圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

鑑定又ハ通辯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得此ノ一項

明治三十三年一月法律第三號ニテ改正ス

第十二條 當事者ノ滞在費ハ滿八里以外ノ地ヨリ來リ滞在スルトキハ一日金二十五錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ滞在費ハ一日金五十錢トス

◎民事訴訟費用法

第十三條 當事者證人鑑定人及通事ノ旅費ハ海陸滿一里毎ニ付キ金十錢トス
 通路兩線以上アルトキハ最近ノ過路ヲ算定ス
 外國ニ在ル當事者ノ旅費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル
 第十四條 判事及ヒ裁判所書記檢證ノ爲メ實地臨檢ヲ爲スニ付テノ旅費及ヒ滞在費ハ證人ニ準ス
 第十五條 本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル
 第十六條 強制執行及ヒ非訟事件ニ關スル費用ハ執達吏手数料規則ニ定メタルモノヲ除ク外前數條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス
 強制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

民事訴訟用印紙法

朕民事訴訟用印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明

治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 財產權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

同	十圓マテ	二十錢
同	二十圓マテ	三十錢
同	五十圓マテ	六十錢
同	七十五圓マテ	一圓五十錢
同	百圓マテ	二圓五十錢
同	二百五十圓マテ	三圓
同	五百圓マテ	六圓五十錢
同	七百五十圓マテ	十圓
同		十三圓

民事訴訟用印紙法

級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立及ヒ申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其効ナキモノトス但印紙ヲ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルヲ得

第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル

第十三條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ許サス

第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買收シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス
第十六條 第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

附 錄 終



明治三十三年九月廿五日印刷
明治三十三年九月三十日發行

不許
複製

發賣所

福岡市博多中島町
廣島市鹽屋町
東京神田表神保町

著作者
發行者
印刷者
發行所
印刷所

民事訴訟法註釋

定價金壹圓

福井 淳

石田忠兵衛

大阪東區安土町四丁目三十八番邸

田島清三郎

大阪西區江戸堀上通二丁目六番邸

積善館本店

大阪東區安土町四丁目三十八番邸

蒲田德之助

大阪市南區饒谷仲ノ町百廿七番邸

積善館第一支店

積善館第二支店

辻本修學堂



積善館發兌法律書類



◎**改新** 法學士判事磯部 耕雲 福井 淳 講義
 法學士判事尾古 一郎 序文
 正價金二十錢 郵稅金六錢

◎**改新** 法學士池田 虎男 校閱
 法學士岩崎 通武 校閱
 正價金六十錢 郵稅金十錢

◎**改新** 法學士田原 閑舟 著
 池田 操 著
 正價金四十錢 郵稅金十錢

◎**改新** 判事樋山 廣業 著
 正價金壹圓 郵稅金二十錢

◎**改新** 判事法學士末 永直 光著
 正價金五十錢 郵稅金十錢

◎**改新** 法學士仲田 順太郎 校閱
 法學士細見 時治 著
 正價金七十錢 郵稅金十六錢

◎**改新** 文學博士川田 剛 題字
 松澤 加藤 傳次 註釋
 正價金卅五錢 郵稅金八錢

◎**改新** 大日本憲法註釋問答
 正價金廿五錢 郵稅金八錢

◎**改新** 字義新 民法註釋
 正價金二十錢 郵稅金六錢

◎**改新** 字義新 商法註釋
 正價金二十錢 郵稅金六錢

◎**改新** 民事訴訟法註釋
 正價金二十錢 郵稅金六錢

◎**改新** 刑事訴訟法註釋
 正價金二十錢 郵稅金六錢

◎**改新** 刑法監獄則註釋
 正價金十二錢 郵稅金四錢

◎**改新** 字義新 戶籍法註釋
 正價金十錢 郵稅金四錢

◎**改新** 改府縣郡制註釋
 正價金二十錢 郵稅金六錢

◎**改新** 改不動產登記法註釋
 正價金十二錢 郵稅金四錢

◎**改新** 民法附屬法正文
 正價金十四錢 郵稅金四錢

◎**改新** 民法及戶籍法正文
 正價金十八錢 郵稅金四錢

◎**改新** 刑事訴訟法正文
 正價金十錢 郵稅金四錢

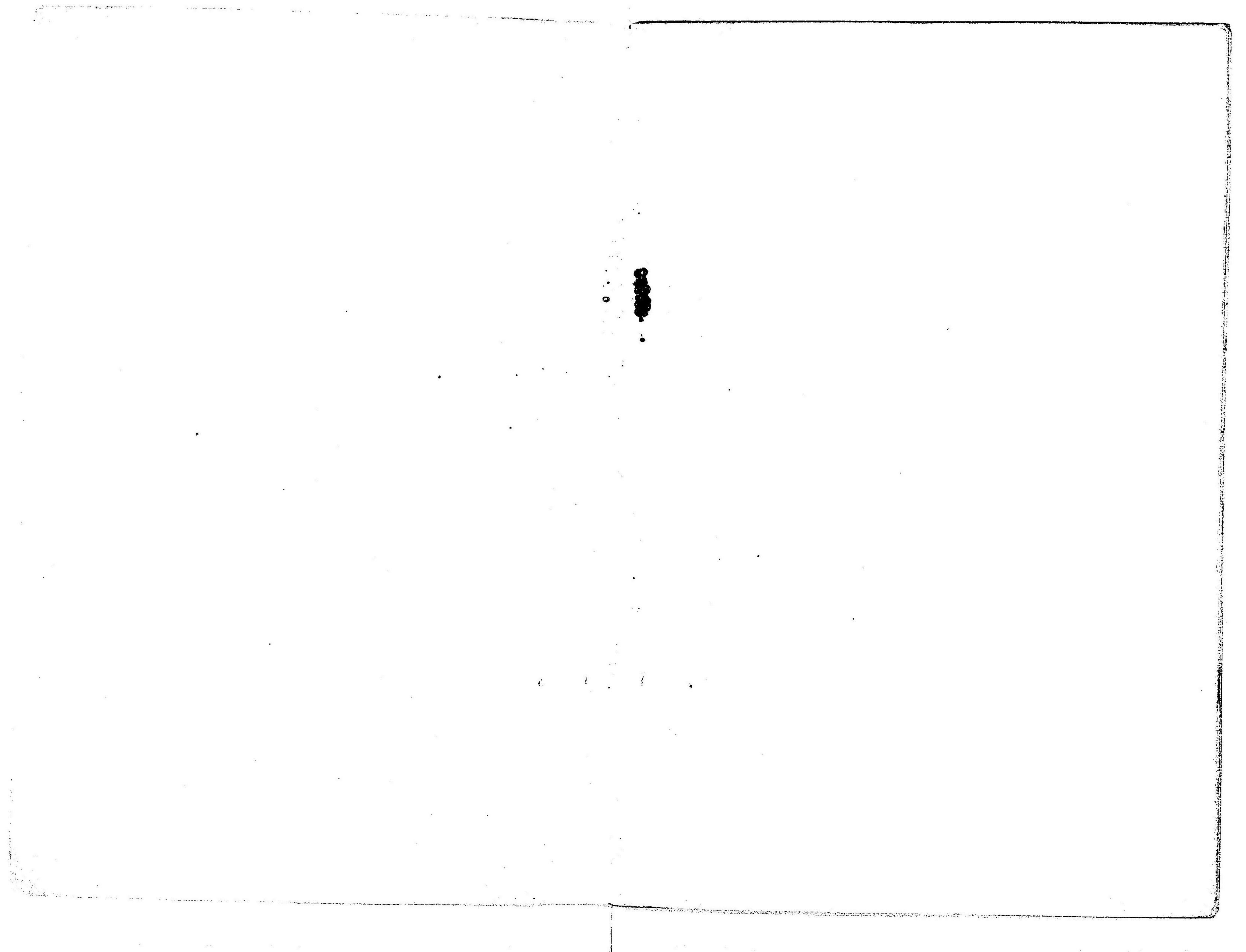
◎**改新** 刑事訴訟法正文
 正價金十錢 郵稅金四錢

◎**改新** 民法附屬法正文
 正價金十四錢 郵稅金四錢

◎**改新** 商法附屬法正文
 正價金十四錢 郵稅金四錢

改新 小學校令 正價金 五十二錢 郵稅金 二錢







改正民事訴訟法講義

大阪 積善館發兌

大阪控訴院判事
大阪控訴院判事

法學士
法學士
耕雲

磯部醇
尾古初一郎
福井淳
序文
講述

036614-000-2

特14-50

改正民事訴訟法講義

福井 淳/述

M33

BBS-0032

